

六稜舎報

昭和57年8月31日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 澁川区新北野2-5-13
電話 06(303)5661代表
振替 大阪9-068025
六稜同窓会 名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・満島正巳
印刷 フジエフオート印刷
電話 0729(87)8254

NO. 15 1982・8・31



佐伯祐三 ノートルダム寺院

提供 田中 睦 (62期)

本年度総会は

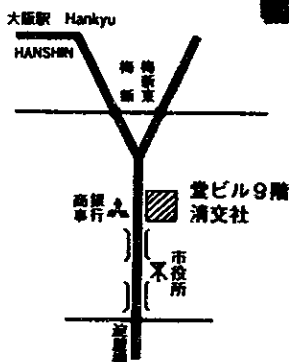
10月22日(金) 午後5時半 受付
午後6時 開会

堂ビル9階 清交社で (北区西天満2-6-8)
電話 361-0833)

卓話 「日本経済の行く方」

読売新聞(東京本社)論説委員 国政恒裕氏(昭和28年卒・65期)

会費 3,000円 (但し、S53卒以降—卒業5年以内—と)
S5卒以前—70才以上—の方1,500円)



昨年の総会から

卓話 100歳への招待(Well aging)

大手前女子短期大学教授
大阪大学医学部老年学科講師

磯典理(46期)

◆120歳までの長寿は可能◆

エジプト時代の遺跡ピラミッドに眠る当時の王様の平均寿命は大体15歳でしたが、時代が下ってキリスト時代の平均寿命は20歳になり、我が国では江戸時代で30歳、明治末期40歳、昭和初期50歳、現在では男73歳女78歳で、55歳の人の平均余命は男女平均30年ですから80歳以上は生きられることになる。

◆人間は一体どれくらい生きられるのか?◆

スコッチウイスキーでおなじみのオールドバーの外箱にトーマス・バーの顔写真と彼は1483年に生まれ1635年に152歳で死亡しウエストミンスター寺院に埋葬したと書いてある。彼はスコットランドの農夫である。100歳で妻を亡くして102歳のとき村の娘に乱暴して18年間刑務所に行き、120歳で出てくるとすぐ再婚して子供1人をつくっている。死後遺体を解剖したのがヒトの血液循環を発見した有名な解剖学者ウィリアム・ハーベーで、その記録によると彼の脳と睾丸は60歳ぐらいだったと書かれている。私達の心臓の搏動を起こす細胞は40億回位の脈搏を打たす力を持っている。

これから計算すると人間は120歳位まで生きる可能性を持っていることになる。現に鹿児島県徳島の泉重千代さんは116歳で、この人の年は戸籍上もはっきりしていてギネスブックに所載されている。

◆幼年期から始まる老化現象◆

いくら長生きが出来ても植物人間やぼけでは人に迷惑をかけるだけで、生きていかざり人生を享受出来る機能が充分発揮されねばならない。人としての機能とは、立って歩く、しゃべる、考える、笑うの四つである。

人は加齢と共に老化してゆく。老化という現象は客観的には理解出来ても自分のことになると案外わかっていない。さらに老化してゆく機構もまだ科学的によく解明されていないが現象として青年と老人の解剖結果からみると脳をふくめて

凡ゆる臓器は小さくなっている。臓器が小さくなることは形態的、機能的、免疫的、精神的機能が低下することで、25歳をすぎると毎年凡ゆる機能は0.5~1.3%低下して行くと云われている。一般には聴力、視力は幼年期から老化がおこり動脈硬化はその人の年齢に比例しておこる。20歳で20%、50歳では50%の動脈硬化があることになる。総括的には防衛力、予備力、適応力が低下して、結果的には病気にかかりやすく、なおりにくくなる。

一方医療の進歩と共に人工長命時代を現出し、厚生省の調査による75歳以上の人の有病率は昭和40年には1000名中177名、52年には411名と老人医療無料化と共に急増していることは、弱ってしかも死にきれない人を数多くつくって結果的には手のかかる老人が多くなる。ぼっくり信仰がさかんになる所以である。出来るだけ人の世話になりたくないということの一面には権山節考が今も生きている。今後の医療のあり方を含めて社会政策の大きな課題である。

人には三つの歳がある。戸籍年齢と見かけの年齢及び体力テスト知能テストの結果の実力年齢である。例えば戸籍年齢35歳の場合実力年齢は31歳から39歳、55歳で48歳から62歳、65歳で57歳から73歳と加齢と共にその差が著しくなってくることは、上手な年のとり方即ちWell agingがあることである。しかるに我が国の教育は大人になるための教育は充実しているが、学校卒業後、老年になってゆく生涯教育は全然なされず各自勝手に年をとっている。80歳迄寿命ののびた昨今、Well agingにもっと関心をもつべきである。

◆成人以降にこころすべきこと◆

老年になると病気が多くなり、65歳以上では一人平均2.5の病気を持っている。多病は多医になりそれぞれの専門医師が別々に薬を出し、結果的には多薬になる。老化と共に解毒機能を果たす肝臓、腎臓の機能は衰えてきているので薬物の副作用が多くなってくる。50歳をすぎると青年の3倍以上の副作用があると云われている。又老年になると口渇感もうすれ身体の水分の欲求が分らなくなり、血液が粘り、その結果脳梗塞や心筋梗塞がおこりやすくなる。中年以降の人がゴルフ場でパットの時心筋梗塞が起こるのも汗をかいて血液が粘り息をつめてパットをする心の緊張の結果と考えられる。

脳重量も軽くなり25歳をすぎると毎日脳細胞は10万個ずつ消失すると云われている。その結果若き日とは心もかわり、老年になると自己中心的・頑固・ぐちっぽい・新しいことを覚えることが得意になる。怠いでやらなければいけないときいららす。他人にわずらわされることを嫌い一人になることを好み抑うつ的になる。自分の体や気分異常に関心をもち過大或は過少評価をする。計画を変更することがむづかしくなり心の柔軟性が欠けてくる等々、心理的にも性格的にも変化が起こってくる。これらは正常な心の老化だが老人は自己が正当であると思いがちである。以上のべたことが異常に度がすぎた場合が、ぼけである。

老人ぼけは脳の病的変化でおこるがさらに本人の気質や性格、人間関係に大きく影響される。例えば自己中心的でめえ勝手、頑固で我がまま、完ぺき主義で融通がきかぬ、しゃれが通じぬ、くそ真面目な性格、家族間の人間関係が悪く相互の愛情不足の場合におこりやすい。

ぼけないためには常に頭全体の細胞を働かすよう、よく学びよく遊び、皆の輪の中に入ってゆくという小学校以来の教訓が必要である。

何れにしても老化現象とは萎縮、後退、低下が身体的にも精神的にもおこることで、一般的には心身の健康、経済的基盤、社会とのつながり、生きる意欲の四つを失うことになり、これらの内外の変化に対し心身共に円熟した老境になるために如何に前向きに対応するかということになる。

ここで若さとは何であるかを考えてみると次の10項目に要約される。即ち、身体の無理がきく。皮膚につや張りがある。

運動能力がある。みるからにエネルギーである。食欲性欲が旺盛である。なかなか疲労しない。理想にもえる。根気がある。思考より行動が先行する。敏捷である。以上を自分の現在と比べて心身の老化度を測定してみよう。

◆長寿の条件◆

長寿の寿という字は中国では本来性生活を意味し、単に長命のみではなく人生を享受出来る機能が長くなければならない。古来、日本及び世界の学者の長寿の条件の調査では空気、水が良質で環境にゆとりがある。気候に四季の変化がありかつ温暖である。男性より女性の方が長寿である。長寿の家系があり100歳老人は生来健康な人が多い。長寿者は野菜と果物を多くとり、腹八分目で美食していない。偏食がなく薄味でタバコをのまない人が多い。外向的でストレスにくよくよしない陽気さがあり、高齢になる迄働いている。等であったが、最近の長寿に関する諸要素の研究によると寿命に関係のある因子として社会保障費、社会福祉、GNP等に関連する要素が極めて多い。例えば医家の普及は勿論のこと早期受診やスポーツの外、高学歴、新聞雑誌ラジオテレビ等の情報量の多さ、一人当りの発電量の多さ等、文化や社会の豊かさとも長寿が密接に関係があることが分ってきた。即ち、長寿は過疎の山間へき地から都市に移りつつあることも事実である。

考えてみるに、長寿に対しこれこそ絶対という金科玉條の原理はまだ発見されていない。何千年来の健康長寿に対する人類の経験として、睡眠不足、過食、過飲、過労をさげ、適度な運動と心の平穏というバランスの取れた生活と凡てに対する前むきの姿勢ということになる。

年会費は 2,000円です !!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用により、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力感謝し、謹んでお礼申し上げます。

さて、昭和58年(来年)創立110周年を迎えることとなりますが、相当の財源の確保が必要です。

年会費は2,000円になりましたが、逆に納入者が減ってはなにもなりません。何卒この間の事情をご了解いただき、旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げます。

財団法人 洪庵記念会

産 婦 人 科 緒 方 病 院

緒方正美(53回)・緒方正世(54回)・緒方正名(56回)

大阪市東区今橋3丁目18番地 電話 06(231)3255・3256・3257



奥村組土木興業株式会社

土木建築総合請負・瓦斯配管工事請負
砕石・砂利・砂等諸石材の生産販売

代表取締役 鈴木 宏 (60回卒 野球部OB会長)

本社 大阪市港区市岡3丁目5番18号

TEL 06(572)5301(大代表)

会 務 報 告

—110周年記念名簿の価格きまる—

3,000円(郵送料込み) 本年度より予約募集

発刊は48年10月の予定

第1回常任理事会・第2回常任理事会・第1回理事会
(3月19日) (5月21日) (6月25日)

3月19日・5月21日・6月25日にひらかれた、常任理事会及び理事会で、慎重な会議がもたれ、次の各事項について一応の結論をみた。なお110周年記念総会については会場の点で多少流動的な面があるが、この線にそって具体的な企画を進めていくこととなる。

人事の件

家近正直(S27・男)・北村美佐子(S27・女)・近藤洋子(S43・女・職員) 鎌田俊一(S44・男・職員)・野口昌幸(S57・男)・森下由香(S57・女)の各氏が理事に就任された。

本年度総会会費の件

昨年まで卒業10年までの会員を半額としたが、最近では就職すれば余裕ができるという社会状況にかんがみ卒業5年までの会員を半額とすることに変更した。

110周年記念名簿の件

発行部数4,000部とし、1部の価格3,000円(郵送料込み)とする。昭和57年9月より予約を開始することとし、会報に同封の振替用紙を用いて、予約金を先に送ってもらう。(振替口座は名称六様同窓会名簿刊行会・振替口座番号大阪1-309004)名簿の発行は総会の58年11月3日にあわせることとする。名簿の広告は58年6月に原稿がそろえばよい。

110周年記念総会の件

日時は昭和58年11月3日(木)・午後1時開会とする。
場所は一応学校とする。(第1回常任理事会では、総会場ザ・シンフォニー・ホールとし、宴会場をプラザホテルとする案であったが、費用が高額になりすぎるので、学校で開催される案が承認された。会費は未定で来年度会報にて発表する。
講演者は2人ぐらいで森繁久弥氏、手塚治氏などから推薦していく。
アトラクションについては、オーケストラ・コーラス・合気道・柔剣道などの演武、応援部などのOBにお

願いして、総会を盛り上げていく。その他親子孫三代母校卒業生、長寿者等々を表彰したらといった提案もあったが、これについては常任理事会に一任された。

110周年記念名簿広告の件

58年5月までに目標に達するよう鋭意頑張っていく。各期に努力目標をお願いするか、割当てるかの方法もあるとの意見もあった。

事務局より

56年度中、東京都杉並区西荻北3-10-9 高橋政美様より3,500円を払い込んで、名簿の申し込みがありました。早速郵送したところ届かず戻って来ましたので、その後も葉書等で連絡しましたが、連絡がつきませんでした。従ってその3,500円を寄付扱いにしておきました。

振替用紙の通信欄のところの記入事項の多いのが、振込みの少ない理由ではないか。従って、住所、氏名は表に書くのだから省いてはどうかの意見がありました。これは事務処理の効率化から置かれているもので、この点をご了解いただいて、少々面倒でも奮ってお振込み下さるようお願いいたします。

110周年記念美術展開催について

創立110周年記念式典は来年11月3日と決定しました。80周年の時にはそごう百貨店で卒業生による美術展が開かれ、同時に佐伯祐三をはじめ他の学校所蔵の名画も陳列されました。

100周年は開催出来なかつたので、今回はなんとか開きたいと思います。

現在の計画は

期 日……11月3日前後1週間
会 場……市内のギャラリー

これは出品者数、出品点数など出品状況によって決定したいと思っています。

出品作品のサイズ……50号以内
出品点数……1人2点以内
出品作品……美術、工芸全般、デザイン部門、建築部門、その他
出品資格……各部門ともプロとして活躍されている方に限ります。趣味的におやりの方はお断わりします。
送 料……恐れ入りますが出品者各自で負擔願います。

出品申込……会場決定のため57年11月10日迄に下記迄点数、大きさをお知らせ下さい。

申 込 先……

大阪市淀川区新北野2丁目5番13号
大阪府立北野高等学校
美術科

中 村 弘

●なお現在学校所蔵の美術作品は古い卒業生の作品で、その後の卒業生の美術作品は収納されていませんので、此の度の出品作品の1点を学校へご寄贈願って、学校で永久に保有展示したいと思っておりますので、意見がありましたらお知らせ下さい。

DM(宛名タック紙)申し込み年度とセット数

卒回	理事氏名	セット数
39	白井次郎	4
41	新井清	10
42	別府審一	2
43	谷弘	5
46	奥村宗夫	2
51	石津一貫	2
55	岸田恭一	3
56	緒方正名	3
57	奥田 亘	1
61	下平嘉昭	1
62	山本次郎	3
65	溝脇正巳	3
67	小池 浩	1
78	高岡靖弘	1
80	阪田善信	1
91	造力全史	1
92	住山真一郎	2

会 計 報 告

六稜同窓会 昭和56年度会計報告

昭和56年度 六稜同窓会 一般会計報告

科 目	56年度予算	56年度決算	備 考
取 入 の 部	円	円	
1. 前年度繰越金	4,361,226	4,361,226	
2. 入会金収入	1,592,000	1,592,000	1,000円× 1.592人
3. 年会費収入	5,000,000	4,602,500	
4. 広告収入	400,000	310,000	
5. 臨時会費収入	450,000	408,000	
6. 寄付金収入	10,000	20,898	
7. 利息収入	130,000	70,273	
8. 雑収入	50,000	10,500	
取 入 合 計	11,993,226	11,375,397	
支 出 の 部			
(1) 運営費			
1. 人件費	700,000	571,440	
2. 旅費・交通費	350,000	141,569	
3. 通信費	300,000	132,260	
4. 印刷・事務用品費	400,000	34,460	
5. 会議費	350,000	226,520	
6. 総会費	1,000,000	777,320	
7. 慶弔費	200,000	306,730	
8. 雑費	150,000	129,414	
(2) 会報発行費			
1. 編集費	100,000	41,800	
2. 印刷費	1,300,000	1,220,950	
3. 発送費	1,200,000	1,162,140	
4. 雑費	10,000	0	
(3) 予備費	4,433,226	0	
(4) 他会計へ支出			
1. 基金積立会計	500,000	500,000	
2. 名簿特別会計	1,000,000	1,000,000	
支 出 合 計	11,993,226	6,244,603	
次年度繰越金	0	5,130,794	

昭和56年度 六稜同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算
取 入 の 部	円	円
1. 前年度繰越金	1,602,430	1,602,430
2. 名簿売上収入	12,000	13,200
3. 広告収入	0	0
4. 利息収入 (過年度分を含む)	100,000	389,099
5. 一般会計より受入	1,000,000	1,000,000
6. 雑収入	0	300
取 入 合 計	2,714,430	3,001,029
支 出 の 部		
1. 編集費	0	0
2. 印刷費	300,000	300,000
3. 発送費	3,500	3,530
4. 雑費	0	510
支 出 合 計	303,500	304,040
次年度繰越金	2,410,930	2,696,989

昭和56年度 六稜同窓会基金会計報告

科 目	決 算	摘 要
取 入 の 部	円	
1. 前年度繰越金	17,091,221	内訳 金銭信託16,091,221
2. 利 息	1,276,215	定期預金 1,000,000
3. 新規積立金	500,000	
取 入 合 計	18,867,436	
支 出 合 計	0	内訳 金銭信託15,898,929
次年度繰越金	18,867,436	定期預金 1,072,500 普通預金 1,896,907

以上のとおり昭和56年度六稜同窓会会計報告をいたします。

昭和57年 4月30日

六稜同窓会々長 上野 淳一

本会計の正確であることを認めます。

昭和57年 4月30日

六稜同窓会監事 滝井 尚三
同 上 栢田 圭児

株式会社 鴻 池 組

取締役社長 鴻 池 藤 一

本社 大阪市東区北久宝寺町四丁目二七番地 電話 06-244-3545

支店 大阪・東京・名古屋・広島・福岡・松江・仙台・札幌・鹿児島

活力あふれる東京六稜会 第25回総会報告

東京六稜会幹事 黒岩暎一(75期)

25回目を迎えた東京六稜会の記念総会は、6月3日午後6時より、いつもの日本工業倶楽部で開催された。定刻の6時には、総会場はほぼ満席となる盛況。

大山代表幹事(56期)の司会で開会し、最初に玉置東京六稜会会長(38期)が、挨拶に立たれた。

まず、ご来賓の母校教諭馬淵先生(88期)、六稜会同窓会副会長鴻池氏(43期)のご紹介と両氏への御礼の言葉があり、続いて、「本年も新会員30名を迎え、本日、そのうち20名の出席が予定されている。活力溢れる若い人の入会を拍手をもって歓迎しよう」と提案され、全員での拍手となった。「最近の政治、経済では再活性化が話題となっている。また、老人の平均寿命が3.5%延び人口の年齢構成が従来のピラミッド型からずん願型へ移行するなど個人レベルでも活力についての関心は深いものがある。私の同期生19名の38会の例会では、今年は77才の喜寿祝に当たるため、いつもはビールで乾杯する所をブドウ酒にて行い、老化をぶっ飛ばす集いとなった」「今宵は、若い者も、老いたる者も昔の中学、高校時代に戻って、大いに楽しく活力溢れる会にしよう」と結ばれた。

続いて来賓の鴻池六稜同窓会副会長が立たれた。「いつも東京の本会に出席させて頂いて地元より熱心なのに感嘆しています。地元を離れているための郷愁が強いからでしょうか。大阪の六稜会の方では、来年の110周年記念の行事を計画し、名簿の発行準備をすすめています。また、六稜会で一番古い石津先輩(18期)が昨年亡くなりました。ご冥福をお祈りします」と、まずご挨拶とご報告があった。続いて、ご自身は北野の旧校舎の最後の年度に当りその思い出として、「土間のままであった雨天体育館」、「見事な藤棚があった」、「中学生への厳しい時代であった」と当時を紹介され、本日のご招待へのお礼の言葉で締めくくられた。

その次は、泉六稜同窓会名誉会長(現北野高校校長)よりのご挨拶が予定されていたが、生憎の急用にてのご欠席であった。本日は悪天候にもかかわらず、229名の出席が予定されていること、第25回のアクセントとして古木陸美氏(75期)のご講演「弁護士からみたフランスビジネス事情」と、総会に引続いての懇親会では福引を行い、景品として森繁久弥氏(45期)の色紙と「屋根の上のバイオリン弾き」の切符10枚を予定していることを報告され、森繁氏へ景品の御礼と共に飛び入りでのご挨拶を依頼された。

心良く受けられた森繁氏は、「昔は、新聞記者に俺はあの名門北野の出身だと言っても全く信用してくれなかった」とまず場内を沸かせたあと、「北野時代、10銭のパンを買って昼食にした」、「鴻池君というのがいて、三人の付き人が送迎していた」、「白いゲートルをつけた厳しい教官がいて、みんなでバカヘイというあだ名を付けた」など思い出を語られると共に「最近の教育の乱れはひどい。自分達の頃は、相当悪いこともしたが、先生や親父を殴るような奴はいなかった」と嘆かれた。「この年になって、飛んだり跳ねたりする屋根上の舞台は大変な労力……」、「だから福引で券が当たりましたならば是非見に来て下さい」と笑わせて挨拶を終えられた。

続いての古木氏の「弁護士からみたフランスビジネス事情」のご講演は、欧州貿易摩擦などで関心の深い折から時宜を得たテーマである。加えて、演者は仏留学、仏法律事務所にて勤務などを経て、昨年、仏法律分野を専門とする法律事

務所を開設されたばかりの才媛という興味も手伝って、場内は熱心に聞き入った。

「最初は文学を志したが、むかないと言われて仕方なく弁護士になった」とまず生い立ちを話されたあと、「階級社会の仏では、弁護士(アボカ)は、上流の下か中流の上に属している。階級で保護されていることもあって、パリには4000人の弁護士と人数は一定している。しかし、伝統的に分野は法廷弁護士に徹している。他方、米・英とくに米では弁護士が溢れているためビジネスローの分野を中心に仏に進出し米国流の大事務所を次々と構える状態となった。事態を憂慮した仏政府は、英のEC加盟を契機にEC加盟国以外が、仏内で弁護士活動を行うことを許可制にしてしまった。そのため出遅れた日本は、事務所が開かれなくなっている」など仏法曹会の摩訶不思議および日本企業の仏への進出、仏企業の日本での資金調達などの際に見えるビジネスローの事例を色々ご紹介された。実務者ならではの生きたフランスビジネス事情のご講演であった。

大拍手で終えた講演をもって総会はお開きとなり、会場を移してお目当ての懇親会となった。

懇親会は、東京六稜会常任幹事福井澄男氏(55期)の総会司会で進められ、恒例により出席者の最長老であられた三木元三郎氏(27期)の音頭で、いつものアサヒビールを注いでの幹杯でスタートした。あとは、「やあやお久しぶり」とあちこちに人の輪ができ、賑やかな談笑となった。


しばらくあって頃合い良しとお待ちかねの福引となり幸運の10人を選ぶ番号が次々と読み上げられ場内は一段と賑った。福引に続いて出席者より、国会議員の松本善明氏(57期)、アサヒビールの中小路茂次氏(58期)らの挨拶が続くうち、会もいよいよ終盤に近づき、これも恒例となった新入会員ひとりひとりの紹介が、住山真一郎氏(92期)の司で行なわれ、大きな拍手が続いた。

次は応援団OBの若手会員をリーダーとして、全員でなつかしい応援歌の合唱と手拍子となった。その会場の熱気に当てられたか、元応援団長の中村典美氏(49期)が飛び入りで舞台に加わり、応援歌をがなるに及んで会は最高潮に達した。

お開きは全員による校歌の大合唱で締めくくり、活力溢るる第25回記念総会は、盛況裏に散会となり、名残りを惜しんでそれぞれに二次会へと流れて行った。ご協力下さいました皆様にも厚く御礼を申し上げます。

税金・経営・申請の相談

マイナスから
プラスへの転換



UENO & CO.
HIGASHI-KU, OSAKA

商戦に勝つ力を
上野弘之と共に

上野弘之税理士事務所 / 上野MSビル

事務所: 546 大阪市北区谷町3-31 本ビル2F タイヤルイン 06(343)8411 3

機械工具・樹脂製品・平和重油ストープ
〒532 大阪市淀川区木川東1丁目3番24号

株式会社 ビンピラ

代表取締役 平佐 國夫(第50回卒)

電話 大阪 06 { (301) 4 6 5 1 ~ 6
(303) 8 4 4 1 ~ 2



故平田ネコ先生

ありがとう

ございました

(48回)中谷一正氏の在学中の落書——授業するネコ

岡田喜雄 (昭2~3)

平田泰雄先生(大正13年から昭和22年まで)母校北野に奉職されネコ先生で慕われて来られたのですが、奥さんもお悪かったのに先生が先に、昨年暮れに亡くなられ、今年1月30日、お住いの近くの千里山会館で告別式があり、旧師や各年度卒業生有志が参列しました。

先生が母校に赴任せられ、物静かな落ち着いた姿勢で、昼休みに先生たちがテニスされていたのをわれわれが窓からネコ顔とヒヤカしていたのを思い出します。ネコ先生というのは当時入れ替って教職を去られた先輩平田ネコ先生の名が、そのまゝ生徒の頭にあつたのが引継がれたようです。

私がたしか、高野山大学で全国優勝弁論大会があり、故山田勝夫先生(弁論部長)に申出ても果不出場など許されそうもないので勝手に休んで高野山まで出て行って堂々優勝して帰って来たが、無断休校出場というので、褒められるどころか、教員室で一時間ほど油を絞られ、涙を堪えて歯を喰いしばって返事もせずにおつたところを「まあ山田先生、本人も無断で出て行ったことは悪かったと言っていますから、折角に優勝して帰ったのに免じて勘忍してやって下さいよ」との助け舟を頂いたことは終生忘れることは出来ません。

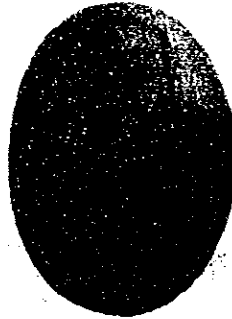
同窓会では水泳教師団で堺の浜、甲子園浜、江井の浜、鳥羽の海などに随って行きましたが、毎年夏、生徒を引率監督に来られお顔を合わしてお互いに喜びました。教職を去られたあとも旧先生たちの同窓会「六稜温故会」の世話役をされ、「お前は俺たちの香菓集めやぞ」と集りのあるときには呼んでもらってきました。

平田先生ありがとうございました。ご永眠安らかに—
(合掌)

明治38年3月卒 昭和56年8月15日逝去(享年94才)

故 石津作次郎を偲ぶ

(道修町二 石津製菓KK代表)



ご子息、一貫(昭13卒)、純正(昭17卒)両氏。親子二代が北野六稜の星を仰ぐ名門一家であり、奥さんの光子(自も本年83才)でご健在。

北野六稜同窓会が昭和7年に初めての総会開催から今日までの発展に至ったのは今は逝去故江崎校長、上野精一、安場積次郎、不二樹蔵之助、石津さんらの提唱努力によるもので、六稜

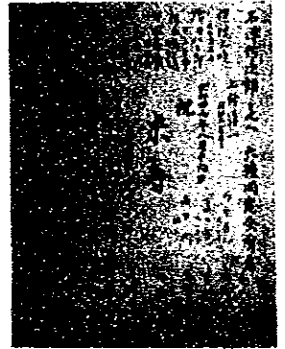
同窓会中興の祖であります。

毎年8月19日のご自分の誕生日にはご子息女9人、孫・曾孫40名に加えて同窓友人、同業関係者ら50名を招き今福クラブでお祝の会が開かれた。

昭和49年8月19日の八十才米寿には、当時の黒田大阪府知事(昭3卒)を始め、六稜同窓会年度幹事も招かれ参加。ご長命を讃えました。

家業の石津製菓は一貫、純正兄弟を主軸として、これまた親子三代にわたり隆盛を極められています。

(白井次郎(T15)、岡田喜雄(S3)記)



ニッピョウ

業務用食品・洋酒・純氷

日本氷業有限会社 (61回古川)

ゴルフ場のエントリー専用 (コース150ヶ所)

阪神百貨店6階

阪神ゴルフガイドコーナー

藤田政江(昭和28年卒)

コーナー専用電話 (06)341-2345・5566

(水曜日定休)

北野戦後史

題字 泉 輔二校長

— 連載第5回 —

回想

北野生活四半世紀

水 落 和 洋



はじめに

先日、神戸三宮の古本屋で大阪朝Fの縮刷版昭和6年2月号を捜し出し、そこに北野新校舎竣工の記事と写真を見つけ、しばし心の躍るのを憶えた。10年余り前、「北野百年史」の編集に携わり、そのさい現校舎の竣工に関する新聞記事を是非見ておきたいと思いながら、それを捜し出す時間的余裕もないままに今日まで目にする事なく、気になっていたものである。

北野現校舎が建った昭和6年は15年戦争勃発の年であった。戦争で幾多の傷あとを残しながら、戦後は新制高校として、この校舎は半世紀余にわたり北野の歴史を刻み続けている。昭和6年当初、生徒数1,400名余で全国一の規模を誇ったが、現在は各学年12学級生徒数1,700名近くを数えている。かつての成小路国民学校の焼け跡や正門前の畑地も校地に含まれるようになり、図書館・第一新館・第二新館、それに新接なった体育館が建ち、今や外見的には最も充実したものとなっている。その中核に総タイル貼りの本館が泰然として昔のままの姿をとどめている。この本館こそ、戦前、戦後を通じてそこに学ぶ生徒たちを包みこみ、北野の伝統を受けつぎ育ててきた大きな器であったということができようか。

私は昭和33年4月から本年3月までの24年間北野に在職した。本館が建って半世紀余、そのほとんど半ばにおよぶ4半世紀をこの建物の中で過したことになる。北野を離れてまだ4か月余、4半世紀の北野の日々をふり返える十分な心の準備も時間的余裕もないままに、山本次郎氏からの再三にわたる委嘱を断り切れずここに筆をとることにした。

勤評闘争の頃

私の北野生活の第1日はまさに強烈であった。昭和33年4月7日職員会議に出席するよう連絡を受けて北野での生活が始まったが、会議に出席して私は愕然とした。配られてきた新年度の担任表の3年3組の欄に私の名が載っているではないか。まだ23才、新任の私が最高学年の担任とは、それは一体どういうことなのか、内部事情の全く分からない私にはそれを問ひ質すこともできなかった。翌日始業式で3年の担任としてクラスに出向いた。恐らく生徒たちは大きな不安を感じたろう。彼らを前にして私は、彼らに不安を抱かせることのないよう、少くとも他のクラスと比べハンディを負わせることのないようにせねばと必死の覚悟を決めた。

ところでこの昭和33年は勤評闘争の山場であった。この年の末から翌年2月にかけて連日如く分会会議がもたれ、時には朝の一番電車で下宿に帰ったこともあった。この間1月には組合本部が押しかけ対校長交渉が行なわれた。この辺の事情については当時の校長林武雄先生が「北野戦後史・連

載第2回」に記載されているところであるが、交渉が深夜におよび、私たち分会としても徹夜交渉は人権問題だとして本部に交渉の打ち切りを求めた。交渉の済んだあと、林校長から「お疲れさん、気をつけて帰らなさい」と、逆に声をかけられた。この時の情景が今も不思議と思い出される。2月、いよいよ峠を迎え、私たちは10名ずつ三波にわたるハンストに突入、私も第一波に参加した。ハンストでは授業を絶対欠くことのないようにとの意志統一のもと、ベルが鳴ると教室に出かけて授業で飢を忘れ、宿直室では布団を被って飢に耐えた。そうした時、私のクラスが全員の名をもって宿直室に激願文を届けてくれた。これは私たちにあって大きな励みとなった。ハンストは60数時間でドクター・ストップがかけられた。勤評は、校長会が組合との交渉の結果を提出をきめながら、蓋をあけてみると全員提出していた。そうした状況のもとで、林校長は決して組合に折れることなく、校長会でも孤立されながら、最後までその意志を買われた。先生と私たちは立場が逆であったが、こうした気骨のある校長がそれ以後もはや再び現われることがなく、それだけに私の思い出の中に、先生の偉大な存在と「学問をしっかりとやりなさい」と云われた言葉とが一際大きく浮び上がってくるのである。ところで私たちの勤評への取り組みにもいろいろな立場があったようである。北野に来たばかりの私にはこれまでからの内部の事情など分かるはずもない。私はただ純粋に、勤評を昭和29年の教育2法、31年の教育委員の任命制と次第に高まりつつある教育の反動化・管理統制強化の重要な段階だとの認識から、これは何としても阻止せねばと考えた。そのさい多くの者が危惧したのは、勤評が実施された暁には、やがて府教委が人事権を完全に掌握し、直轄強制異動への道が開かれるのではないかということにあった。これに対し林校長は「私の目の黒いうちは絶対に府教委に勝手なまねはさせない」としばしば口にされた。それから4半世紀経った今、現状はどうであろうか。もはや校長の人事権は皆無に等しく、新規採用は全て府教委の直轄人事となり、そして本年3月、私たちがあの時最も危惧した一方的強制異動が現実のものとなって、私はその第一号として遠く南河内の新設校へと転勤を命ぜられたのである。世の風潮として、流れに身をまかせつづいざというときに徹底的に抵抗すればいいではないかという考え方があろう。しかし一旦事が始まるとどうにもならないことを私自身、身をもって体験するはめとなったのである。一方、勤評闘争では校内の民主化が叫ばれた。それ以後も分会は校務分掌拒否を続けた。闘争が終結したのは昭和37年のことであった。この校内の民主化闘争は何をもたらしたのだろうか。校内の体制は以前と全く異なるところはなかった。むしろ旧に戻ったとでも云うべきか。

最大の試練

昭和44年1月、新聞・テレビは東大安田講堂の攻防を大きく報じた。これは高校生たちにとって大きな衝撃であり、彼等に強く問題意識を抱かせることとなった。その直後、「大学紛争をどう思うか」とのテーマでクラス討論を行った。この段階ではなお多くは「どうしてこうした紛争が起ってきたのか、これほどまでにやらねばならないのはどうしてなのか、十分に理解出来ない。しかし我々もやがて大学を受験する。無関心ではいられない」といった程度であった。この頃から外部からの働きかけが盛んとなって来た。私たちが直面した最大の試練は文化祭を控えた5月・6月であった。新聞・社研・弁論各部の有志から文化祭に京大の井上清教授を講師として招くよう要求が出され、これをめぐってしばしば会議がもたれた。私たちとしては、文化祭の講演は従来からの慣習

に従い北野プロパーに限ること、要求が部顧問の承認を得ておらず一部の生徒の要求にすぎないとしてこれを拒んだ。この間生徒たちは直接井上教授と交渉をもち、また、3年生の大多数が彼等の要求を支持する動きをみせた。あくまで井上教授の講演を拒んだとき生徒たちがどのような行動に出るか、もし講演を認めたときその講演が生徒たちにどのような感化をもたらすか、私たちは悩んだ。問題処理には教員の一致団結が不可欠であった。度重なる論議の末、文化祭から4日後井上教授の講演をさくことになった。教授は「現在における大学紛争の歴史的位置」と題して、もっぱら大学紛争の経過を述べるにとどまった。この講演後その総括をめぐってほとんど100名にもおよんでいた生徒のグループが分解し、大半は表立った行動から退き、一部の生徒はより尖鋭化することとなった。2学期始業式には始業式ボイコットの動きがあり11月には3名の生徒のハンスト騒ぎがあった。当時分会長代行をしていた私は、11月半ば「安保廃棄・沖繩即時無条件返還」を要求する全国統一ストの日、生徒たちによる学校封鎖の危険を感じた。その前日、同僚の一人と共に理論的リーダーと目されていた生徒と話し合う機会を持った。当時各高校では「教師敵論」が活動家たちの間にさかんに口にされていた。しかしその生徒は私たちの意見に耳を傾け、ついに「教師は敵だ」との言葉は耳にすることはなかった。翌日何事もなく済んでほっとしたことであった。この学園紛争は一体何を残したのだろうか。昭和44年後期の生徒会役員団に4つのグループが立候補した。翌45年以降教年間立候補なく役員団が成立しないままにすぎた。唯一つ学園紛争のもたらしたものと取り上げるのは卒業式の簡素化であろう。時の3年担任団が中心となって協議が重ねられ、時の浦野博夫校長の発案で従来の来賓の祝辞、生徒の送辞・答辞もやめて、卒業証書授与・校長の式辞のみという最も簡素な卒業式となった。簡素ながらも、そこには生徒・保護者・教員三者のこの日を喜び合う真の姿がある。

百年史の編纂

昭和43年から始めた百年史の編纂は、学園紛争が一応沈静化した46年から本格的作業に入った。学校には明治以降の史料が豊富に保存されていた。学校日誌・学事年報草稿・往復文書・報告書綴・府下中学校長会記録・校友会誌「六棧」等等。あらかたの史料探訪も終えて、47年春、いよいよ担当者4名で執筆分担をきめ、私には第一次世界大戦後から第二次世界大戦後の大正8年～昭和21年、旧制中学時代の最後の四半世紀がまわってきた。その直後、私は大変な時代を引き受けてしまったと後悔した。理由は、この時代の卒業生といえど今や70～50代で第一線の長として活躍しておられ、一言ある人々が多いに違いない、もし取り上げ方によっては必ずや一言あるだろう、これは迂闊には書けないぞということであった。熟慮の上、私はできるかぎり史料を集め、その史料をしてその時代を語らしめることによって批判の余地なきものにするに決めた。またそうすることが当時の卒業生にとってより具体的に当時の日々を思いだす糸口になるだろう。時に講堂下の倉庫奥深くもぐり込み、時に史料を求めて京都の北郊まで足を運んだ。私が最も力を入れたかったのは戦争中の北野の日々であった。この時代はまた最も史料が乏しく苦しんだところでもある。当時必死になって捜した昭和16年～24年の職員会議録が百年史刊行の3か月ほどのちにひょっこり出てきた時は、悔むどころか無性に腹が立ったのを憶えている。最終原稿を手渡したのが48年の5月15日、百周年式典まであと5か月もなかった。刊行後「北野百年史」は北野関係者のみならず、教育関係者、更に海を越えて遠く合衆国

やオーストラリアの国会図書館からも注文があった。苦勞のかがあったというものである。

あとがき

来年北野は百十年を迎える。百十年史の編纂や史料展の計画を聞く。百周年この方、北野は全く平穏無事である。しかし目を大阪府全体に向けたとき、果していつまでこれまでの北野でいられるか、一抹の不安を感じざるを得ない。山本次郎氏からの「最近の府教委の動向にふれて弊世の辞も」という注文に十分答えるものではないが、あとがきとして最近の府教委の動向にふれておくことにしたい。

現在府立の普通高校は十年前の2倍、120校を数える。更に58年10校、59年6校の開校が予定されている。云いかえれば北野の百周年式典後に開校された高校の方が多くなるということである。そこで今最も問題とされているのが新設校の困難さ、既設校との学校間格差である。この格差の最大の原因が入学選抜制度にあることが、あとがきとして最近の府教委はもっぱら教員の年齢構成のアンバランスに因を求め、その是正で事足りりとする。本年3月、突如として「促進人事」の名のもとに一方的な異動を強行してきた。教員が学問と人格向上に努め、全力を注ぎ込んで生徒に接する、そのためには何よりも教員の個性・自主性が尊重されねばならない。今回の府教委のやり方は各高校の内情に何の考慮を払うことなく、教員各自の意志・事情を全く無視したものであった。これを足がかりに来年度は大規模な強制異動が予測される。新設校では若い人たちが必死になって努力している。教員がその学校に愛着をもち生徒を育てる喜びを味わうことができるような環境づくりこそ府教委の努力であろう。形だけを繕い、問題を現場に押しつける、これで府立高校は一体どうなるというのか。百十年の伝統をもつ北野、せめて本館の生きつづけるかぎり、従来通りの北野であってほしいと願うのは北野に関係したもののエゴであろうか。

みずおちかずおき先生略歴

昭和9年和歌山県橋本市の御出身。大阪大学文学部卒。桃山学院高校教諭を経て、昭和33年本校教諭に御就任。昭和57年3月まで24年間にわたり、世界史を担当され、北野百年史編纂事業にも従事される。現在、美原高校教諭。

★教科書・受験参考書

大阪市淀川区十三本町1-16-9

高橋尚文堂

電話 (301) 5510・(302) 4840

池田市石橋2丁目3-1

(阪急宝塚線石橋駅前)

耳鼻咽喉科

井利 鼎 (昭和10年卒)

電話 (0727) 61-1423

想

題字 阿部隆一先生

組長を免す

松本善明 (57回 衆議院議員)

「組長を免す、松本善明」と学校の掲示板に張り出されたのは、1942年(昭和17年)の暮、私は4年で春の高校の入試準備に余念のないときだった。在学中にこういうことに遭遇した組長を見たことはないし、おそらく北野の歴史にもまず他にはないことだろう。珍しいことだから在學生は皆知っていたと思うが、2、3年前の57回生の集りで、「君は中学の時から共産党の運動をやっていたのか」と思ひもかけない名譽な質問をうけた。太平洋戦争が始まって一年後だから、もしそうだったとしても「組長を免す」位ではすまなかつたらう。そんなすばらしい事ではなかったが、当時の北野中学を知ることのできる一つの事件であり、私にとっても忘れることのできない事件なので、会報編集部から原稿依頼をうけた機会にこの顛末を書くことにした。

1942年12月8日真珠湾攻撃一周年を記念して北野中学では全校生が真珠湾攻撃の映画を見ることになった。どこで見たのかもう記憶にないが、一定距離を軍装で部隊行進し、映画を見て解散という行事であった。その年の6月すでに日本軍はミッドウェー海戦で敗北し、太平洋戦争の戦場は日本の敗北の方向に大きく転換したあとだったが、戦時下の報道体制のもとでそんなことは知る由もなかった。

戦時中のことで軍事教練も厳しく、教練の教育は3人いたし、映画館や喫茶店に入ることは禁制だった。

当日私は先生の注意をよく聞いていなかったのか映画をみることに嬉しきで一杯だったのか、軍装して行進することを知らなかった。軍装して部隊行進するときには、ゲートルをつけ、組長は指揮をせねばならない。その時どうだったかはっきりしないが、指揮は持校用の剣を用いてする時もあった。私は自分がゲートルを着用せずに集合したという大失敗に気づき覚悟をきめていた。ところが、同じ組の橋上君がつかつかと寄ってきて、自分のゲートルを外し、「君は指揮をせねばならんから俺のをにつける。俺はどうせにらまれているんだからいいんだ。見つかったら出てくるんじゃないぞ」といって貸してくれたのである。彼はラグビー部で、戦時中のことだからたいしたことではないのだが、当時としては硬派の不良といったところか、学帽や、ゲートルもわざときたなくしていたようだった。御父君は大阪府の「視学」という今でいえば「教育長」という立場におられたのだが、何か本能的に当時の教育に抵抗を感じていたのかもしれない。今でいえばいい言葉ではないが「落ちこぼれ」といってもそう遠くないと思う。私は組長ではあったが、器械体操部に所属し、運動部ということで親近感をもたれていたのであろう。そんな経過では彼のゲートルを借りて部隊を指揮していた。橋上君は行進中隊列の中を右にいったり左にいったり教官に見つからないよう行進したが、とうとう教練のM教官に見つかった。了解散のときにひっぱり出されて叱られた。私の心の中で、「出てゆこう」という気持とためらいとが渦巻いているうちに私は襦袢を失して了った。解散後すぐに私はM教官のところへ行って「実は私が忘れたのです」と事の次第を明らかにした。当然の事ながら私は猛烈に叱られた。そしてその中で「お前なんか今日の映画をみてもわからんだろう」と云われたのである。あとから考えてみると、ここで私がおとなしく恐縮していれば、こんな文章を書くことにもならなかつたのだと

思うが、私は「お前なんか今日の映画をみてもわからんだろう」という言葉にどうしてもひっかかった。私の年代は、軍国主義教育の典型といわれる「サイタ サイタ サクラガサイタ」「ススメ ススメ ヘイタイススメ」で始まる国語の教科書をはじめつかつて教育され、中学の入試は天皇の歴史を書いた「国史」だけといういわば軍国主義教育の申し子のような年代だったので、私はその頃すでに心からの愛国少年だったのである。私は一晩中かかって「私がすべて悪いのでその点は申し訳ないけれども、「あの映画をみてもわからないだろう」というのは「お前は日本人でない」といわれるのと同じだから、これは取消してほしい」といういわば陳情書をつくりあげ、翌日これをもって教員室に行きM教官にお願いした。教官は目を通してのうちにみるみる真赤になって、「お前は俺に文句をつけにきたな。よい証拠ができた」といながら立ち上った。私は生れてはじめて鉄拳を数発くらったのである。陳情書をもってゆくときには私はどんなことになるかなど全く考えていなかったのだが、今から考えると、教官は軍隊で上官に反抗した場合と同じように考えたのではないだろうか。軍刑法には「抗命罪」というのがあり、軍隊では極刑をふくむ重い罪となったのである。それから間もなく私は課長といったと思うが、学校の motto も軽くはあるが正式の処分をうけた。母と一緒に校長室でその処分をうけたときのことを、82才になった母は今も覚えている。「組長を免す」が張り出されたのはそれからのことである。

この処分については先生達の中でもいろいろな意見があったらしい。担任の先生は「一高に入って見返してやれ」と激励されたし、4年終了時の通信簿はそれまで「甲」以外でなかった操行欄は「丁」で最低なのだが、修身は「98」教練はM教官の担任ではなくて「95」がついた。平均点が90点を越せば学年全体で1、2番だったから95点以上などというのは全く異例だった。私はそれから間もなくおこなわれた一高の受験に失敗したが、首席で5年1組の組長になった。

一方戦局はますます激しくなり、私は翌1943年12月海軍兵学校に入学した。それまで軍関係には、陸士、海兵あわせてもせいぜい2、3人しかいかなという北野の伝統のなかで、私と一緒に兵学校に入ったものは何と20名の多くにおよんだ。すでにドイツ軍はスターリングラードで敗れ、パリは解放され、イタリヤは降伏、日本軍は各地で全滅、日本の敗北はさげられない情勢だったが、全滅は「玉砕」、敗北は「転進」と報道されるその頃だったから、人は情勢を考えることさえなかった。T校長の「10年後の大学生となるより1年後の一兵卒となれ」という言葉をその通りだと思って海軍兵学校に入学した。満17才のことであるがもう40年も昔のこととなった。

戦後のことであるが、私は海軍兵学校の最上級生のときに敗戦を迎え、「戦争に何故負けたか」「何故戦争がおこったか」を考える中で、大学時代に日本共産党に入党した。この頃は思ってもいなかった国会議員になってもう15年になる。

橋上君は医者になる道を選び、すばらしい夫人を得た。その励ましの中で聞いたが、無医村だった長野県の阿智村に行き、お世辞でなく「赤ひげ」のような信望の高い先生になっている。地元の小学校には毎年たくさんの本を寄贈して既に15年、橋上文庫ができています。私は国会議員になってからおたづねし、その生活をかい間みて、彼の中に本当の医者を見るのができた。酒も煙草ものまない橋上君を失礼ながら北野時代には想像できなかったが、まさに尊敬すべき学友である。

既に故人となられたM教官は、かなり前、東京の同窓会でお会いした。その翌日だったか、私が渋谷で街頭演説をしていたときに、宣伝カーの下でしばらく聞いておられた。演説

が終ってあきつしようと思つたらもうおられず、宣伝カーの傍でカンパを訴えていた若い党員から、1万円札を入れて行った人があると報告をうけた。今なら何万円にあたるだろうか、私はその主がM教育だつたと思つている。

同じく故人となられたT校長からは、戦後共産党に投票したというお話を伺った。ともに御冥福を祈る。

私はいま、橋上君が叱られたときにすぐに出てゆくことのできなかつた当時の勇気のなさに苦い思いをしながら、私のこの文章が、当時の世相や教育をふりかえり、これからの教育を考える何らかの材料になればと思いながら筆をとっている。戦争に勝つための教育ではなくて、人間について、人間の歴史や幸福について深く考え、人間の可能性を大きくのばしてゆく教育を心から願いつつ。

大阪ひがみ歌

— 北野人の奮起をのぞむ —

中馬弘毅 (67回 衆議院議員)

北野を出てから早や27年の歳月が経てりました。そろそろ昔を懐くむ年代になったのか、同期の連中の同窓会やゴルフコンペなどへの参加者が多くなってきた。卒業以来、20数年ぶりに顔を合す友人もいるが、互いに紅顔の美少年、美少女時代のつもりになって、北野時代の思い出に花を咲かせる。ピンタ、オンセン、ヨチヨチ、パチン、ポツ……など第三者が聞いたら何の符牒か判らぬことを言い合つてワイワイ談笑するのは実に楽しいものだ。おのれが40半ばを過ぎたオジン・オパンであることをつい忘れてしまつて……。

昭和47年、それまで勤めていた会社を辞めて、政治改革の一端を担おうとその活動に入る決意をした。

先ず、自分の秘書になって勉強しなさいと熱心に入会をお勧めいただいた自民党のセンセイ、社会党の公認手続きをするからとお誘い下さった方、わが党がカネも組織もすべ動員するからとお招きいただいた民社党最高幹部、これらの方々の暖かい御好意を全ておことわりして、積極無所属を標榜しての立候補に、その意図を理解し一生懸命に選挙を手伝ってくれたのは北野の友人達であった。

学窓を共にした友人とは有難いものである。

われわれが北野に通つた頃は、十三にはラブホテルのネオンはほとんどなかった。阪急沿線は田園風景が拡がっており電車もまだ手動扉の車輛が多かつた。

選抜高校野球で全国優勝を果たした余熱もあつて野球部は意気盛んであり、伝統あるラグビーの対天王寺戦にも熱がこもつていた。

小山は山岳部に入って、休みになると六甲や伊吹、そして信州の山々に青春の足跡を残して廻つたものだ。

ところで、北野の卒業生をみると、自主独立の校風の故か、医師、法曹人、実業人、芸術家など、自由人が多いように思う。逆に、中央官僚や政治家は少ないようだ。現役国会議員では松本善明先輩と小生だけ、しかもともに野党議員ということも、批判精神が旺盛で権威に迎合しない北野の校風と無縁ではないように思う。

最近、わが大阪が経済的にも文化的にも東京や他都市にくらべて地位が低下し、往時の活力が乏しくなってきたことを嘆く向きが多い。

カネと権力、情報、文化の全てが東京中央に集中する政治制度や経済機構を許してしまつた結果である。さらに、大阪人でありながら主体性を捨てて権力にすがることが身の振り方とする情けない人達が増えできたことも、大阪の地盤沈下。に拍車をかけている。

ふるさとは遠きでありて想うもの、と言うが、大阪に生れ

育ち、大阪を愛する者として、東京の連中の大阪に対する見方には、腹の立つことが多い。

大学時代は東京で過ごしたが、下宿のオバサンが、小生が大阪に帰省して上京してくると「田舎の方はどうでした？」と、大阪をイナカ呼ばわりされたのには驚いた。東京人にとって東京以外の地方は全て田舎としか思っていないようだ。

出身校を聞かれて北野だというと「あ、北野高校ですか、あの辺りは静かどころだったが高島平の団地ができて……云々」どうも話しがオカシイので調べてみたら、東京板橋区に都立北野高校というのがある。それから「大阪の北野」ということにしているが、大阪をつけてみても、灘やラサールや日比谷はともかく、東京では北野の知名度が全くないのが残念だった。

社会人になって、勤務した会社から2年半経済企画庁に出向して、「経済白書」の執筆や経済動向分析に携わつた。勿論、日本経済全体の把握をするのだが、少しおられた議論の場合、東京の消費者物価、東京の地価、東京の交通状況……等々、東京の指標が中心で、日本のもう一つの大都市大阪の指標など一顧だにされない。頭にきたついでに、大阪のある機械会社の全国的シェアをもつ機械部品の受注状況で、日本全体の設備投資動向を予測するシステムをつくつたところ、これが実によくフィットする。「中馬君の設備投資予測は実に正確だ」と内部で評価されたものだ。

国会に出てみると、東京中心主義、中央集権の実態は想像以上のものであった。

「国立第二劇場」をつくるという。東京にはあらゆる劇場設備が揃っているから、第二は日本の歴史的文化的伝統ある大阪に、と主張しても容れられない。

大学に通えない人や、勤めながら、在宅のみ、再び勉強したい人の為の「放送大学」設置が決まつたが、先ず、最初に何処から放送すべきか、東京には国立・公立・私立の大学がそれこそ無数にあり、東京在住の人達はその気になれば勉学の機会には十二分に恵まれている。必要なのは、東北や、四国、九州、真日本だ。教授陣の勤務や生活など現実面も勘案して、大阪に本部を設置して、関西・四国一円に電波を発すべしと主張したが、結果は東京タワーから電波のとどく範囲となつてしまつた。またまた東京だ。

無資源国ニッポンにとって国際交流は生命線である。そのための本格的な国際空港がわが国には一つもない。成田がそれを目指したが、いまだに滑走路は一本だけ、夜間離発着もできない欠陥空港だ。泉州沖にナリタを上廻る規模の本格的国際空港を早急に建設し、後世の遺産とすることがわれわれの義務だと主張しても、中央官僚の答弁はナリタを何としても整備したい、大阪にも必要だろうが予算がない、の一点張りだ。

この他、あらゆる面について、先ずは東京首都圏、その次は全国的に見渡して種々の指標や財政状況、政治的配慮をも勘案して施策を行うという態度だ。決して大阪を東京に比肩して日本を担う一大都市圏として位置づけようとはしない。名古屋や横浜や福岡、仙台や神戸など、日本の主要都市の一つ、ワンノブゼムの感覚しかないようだ。

全ての中枢機能を東京一点に集中させた官僚国家日本にとって、東京大爆発、東京大震災は瞬時に日本の社会・経済マヒの大惨事となろう。また、全国津々浦々、東京のカーボンコピーのような都市政策、教育・文化政策の画一化は夫々の地方の特色を失わせ、オモシロくもオカシクもない日本にしてしまうことだろう。

少くとも大阪人の誇りをもつた人達は、東京中央に陳情する前に、自から立ち上つて自分達の手で制度を改革する、事業を成しとげるド根性を示してもらいたい。とくに、自主独立の気概を伝統的に受け継ぐ北野人が、その中で指導的役割を果たすものと期待したい。

座談会 北野では、いま……

— 府教委による強制異動をめぐる —

出席者

西田駿夫 (50期、24～42、前池田高校長)
岡田裕士 (29～、生物)
田上泰昭 (30～、国語)
博本正和 (30～、数学)

藤尾直正 (33～、国語)
阿部八重 (39～、家庭)
司会者
山本次郎 (62期、弁護士)
溝脇正巳 (65期、37～、国語)

ベテラン先生とぶ

山本 本年四月、大阪府教育委員会による府立高校教職員の強制異動の問題が一斉に各新聞に載りました。「伝統のある府立高校ほど先生が長く居座る傾向が強い。人事交流が停滞して新設校との年齢差が広がっているため、府教委は3月31日、同一校に20年以上勤続するベテラン教諭約30人の転任を内示した、と。府教委は「学校のアンバランスな教員構成の是正のために初めて踏み切った」と説明しているが、内示を受けた教諭のうち約10人が「強制異動だ」と訴え、府立高校教職員組合も反対運動を展開する、云々」という趣旨のことが載っているわけです。北野におきましても、同窓生にとって懐しいお二人の大ベテランの先生方がこの異動によって旧職員とされました。また聞くところによれば、今年あたりからさらに大々的な異動が行われるそうですがね。そこで西田先生にお伺いしたいんですが、先生は昭和48年、49年、50年と府教委に在職しておられましたそうで、指導第一課長、昔で云えば視学のような御立場にあってまあ一番こういう問題をよく御存じだと思わんですが、府立高校の教職員の人事権の問題、異動や転勤をどのようにするかという問題は、大阪府では戦後大体どういう風な慣行になっていたんでしょうか。

西田 まあ僕の想像も含めて、考えることを話しますとね。戦前はね、校長がよその学校からうちの学校に向くような人を探して来て、「お前も来いや」というようなことでね。来たら一弁俵あげたるからおれとごへ来い、というようなことを含め、主に校長がスカウトして来てやね。そうして自分とこの学校の陣容を整備していた。こうなっていたわけやね。戦後、僕が北野の林さんから採用されたような経緯もそれに近いようなところがあって、ただ校長の一存で給料変えたるというようなことはでけへんかったけど。そういう風な状

況で校長さんが広く世間から人を求めることは出来たわね。その後、いつ頃やった、試験が出来たんは…。

博本 試験はね、あれは昭和29年からです。大阪府で採用試験をはじめた。

西田 あんなテストが出来とったら、俺は教員になれへんかったなあ。その方がよかったのに、とこういう風なことを云いよった奴もおったな。

博本 あのとときは試験が年に2回ぐらいあったと思うんですがね。

藤尾 あればね、1月に大学卒業生に対してやるんです。7月は昇任試験という奴をやっていたな。いわゆる常勤講師を雇い入れてね、常勤講師ばかり雇い入れても資格がないもんだから、それを拵上げるために7月に昇任試験を……。

山本 そうしますとね。大阪府の教職員に任命されるのは府の教員採用試験を受けて通ってですね、それから府教委から辞令がおりるんですか。

藤尾 「大阪府教諭に任ずる。何々高等学校勤務を命ず。」

山本 「命ず」が補職ですな。そうすると、任命と補職を教育委員会がやると。校長さんと教育委員会の関係についてお伺いしたいんですが、よく林人事ということが云われておりますでしょう。林先生が気に入られたというのかな、こうと目をつけた話ですがね。そういうときは、任命は教育委員会がしても、補職については、つまり北野に来いということについては、校長と教育委員会の話合いであの先生を北野に呼ぶというようなことは出来たんですわ、あの当時は。

西田 だから世間から広く人材を方々から呼んで来たわね。北野でも僕ばかりやなしに教員でない人が来ておったでしょう、あの頃は。しかし、山本君が今、まさに主題として云いたいのは、林人事という云い方の校長の人事権というもの、まあかむて一弁問題になった強制異動という問題やね。吉沢教育長時代の。

山本 3年間でしたかね。

西田 3年目ちょっとやって止めてしまった。まあ、いわゆるテイクノートというものがあつたとか、なかったとかいうようなね。

希望と納得の原則

山本 覚書を交したんですか。

西田 そういうことで、吉沢さんは最後にやるやる云うとって、最後の年は一人もやらんわね。という風な経過を経て、まあ希望と納得ということを定めることによつてね。まあ、転勤するせんということの第一発意者は教員ということやわな。実体としてね。お前、俺とこ来てくれやとか来えへんかというようなことで、ぼんなら行くわと希望を出して、元の校長さんが止めとけと云うてもやね、押し切つたような例は最近までいろいろとあるわね。

山本 なるほど。そうすると、府教委と組合の間で、希望と納得という文句で表わされるような示談みたいなものがあつたんですね。

博本 それが41年、42年の強制異動のときなんです。

山本 そういふ希望と納得の原則が、大体いつ頃まで維持されました。

西田 いや、今でも維持されてますよ。それはずっと続いている筈ですよ。

博本 それが破られたと、僕はまあ、そういう表現をするんですが、それが今年の春です。

山本 今年の春。

田上 北野については、だな。

西田 数は去年です。

西田 実は去年というより以前にね、新設校がバンバンと出来だした頃です。42、3年頃か、4、5年かも判りませんが、14校一べんに達したときや。まあそのちょっと前から、さかんに新設校へベテランを移すということで、新設校へ優秀な人材を送って欲しいと。将来は管理職にというような、餌みたいなもんも付いとると。まあ、そういう風なことも含めながら、新設校に対する人事の平準化という努力が非常になされた。

田上 しかし、西田さんが今云うたそれは、非常に結構なことじゃあないの。これは人事の仁義だと思ふんだよ。というのは、こういう希望があるから、だからこういう方向で考えるから来ないかとかそういうのを一人一人に話をかけて来るというのは、人事として非常にスムーズなやり方だと思ふんですよ。だから、それは大事にしていかなければならぬのであって、これをどうして放棄してしまったのか。

西田 放棄と云おうか、それがスムーズに動いている間はそのことをやって行くわね。しかしだんだんスムーズに行かなくなったんじゃないですか。一つには、やっぱり人間のことですから、そう増えて来ると新設校がね、ちょっとした薄いお墨付きを持ちながら異動して行っても、なかなかうまく思いどおりに登用されへんのじゃないかということがあつたわね。もう一つは、登用やなんかは全然無視しながら新設校で頑張つてみせようという、純粋に教育者の一種の理念に燃えて行きはった人らがあつて、その人達はやっぱり長い間教育に取り組んで来た人と思うけど、あんまり生徒が悪いんで挫折される。それで、あきらまへんと。迂闊に勧められて行ったらあきらまへんで、ということで、新設校へのスムーズな人事異動ということが抑えられたことがあるんじゃないですか。

田上 それは二つの点がある、と思ひますよ。今の挫折ということで云うならばね。一つはね、そういう風に本気になって取り組んでいる先生を必ずしもそういう先生が満足するような状況にまで持って来れなかったとするならば、府教委はそういう先生をじっくり見てね、この人はこのままおいといは不幸だということならば替えるという、そういう一つの働きかけ。府教委の細密な教員全体に対する目くぼりということが一つ。もう一つは、行政的な問題としてそういう人達が一生懸命やっても展開しない現状というものをね、学校の生徒の平準化というような方向で考えるという行政的な面と。教員の人事的な面と行政的な面との二つが欠けてるみたいな気がするんですよ。

西田 今、府教委とおっしゃいましたが、府教委やなくてね、やっぱり現場の指揮官である校長さんですよ、問題はね。こいつの希望を適えて出そうやないかと、ほんで今度は府教委へ行つてね、役に立つ奴出すねんからもう一人ええ奴で埋めてくれや、と府教委に頼みに行ったら、府教委はその点の世話はしとるんです。先生のおっしゃる通りに府教委が威力を発揮しようと思つたらね、校長、黙つとれと。こいつはそうやないねんからこうするわいということがなされるわけですよ。そういう例は一件もありません。やっぱりね、各現場の校長の判断やわ。結局ね、人事というものはやっぱり校長の裁量なんや、教育委員会に擬じ込ん

だりなんかする、裁量以外に手腕という言葉をを使うか、熱意という言葉をを使うか、そういう面が相当、校長には残されてるんじゃないですか。山本 法律によりますと、教育委員は5人ということになっていますね。だから、政策決定の重要な部分を事務局がするんじゃないかと思うんですがね。結局、事務局員がどういう風なルートで各校の教職員の実体を把握して、この人を異動させるということを決めるんでしょうか。

西田 これはやっぱりね、各段階があつて、管理職人事等については殆ど教育長ですわね。その次その次くらいのところに、三段階くらいに別れてね、それぞれ専門の守備範囲があつて、教育委員会網が成り立っている。

山本 今年あたりから行われている強制異動の根拠というあたりに、焦点をおきたいんですがね。まあ、本校でも2人、白羽の矢が立ちましたけれども、そういう風な或る職員に白羽の矢を立てるのはどういう風な操作で行われているんですか。

西田 これは全然想像です。これは各学校に割り当てがあつて最低何人というね。最低何人という表現でなくて、元々新設校が出来出した頃からですわね、各学校の校長を集めて、全体に対してそういう云い方でさかんに云われておつたわけですよ。

山本 結局、20年以上勤務してあつて、且つ54才以下という職員ですわね。それが北野に12人おつたんですが、12人という中から2人という案を府教委が出したということを知っているんです。

西田 移す人までね、府教委は指名しないと思ひよ。

田上 そうだと思ひますよ。人数だけですよ。何人以上……。

博本 それは校長会を召集して、云うたようですよ。

田上 それを校長は、誰と決めることは私はしなないと云うて突つ撥ねた。

満藤 そういうことは府教委にまかしくと。

田上 うん。府教委に托してしまつて。そういう風に我々は説明を受けた。

岡田 説明してるわ。校務委員会でもやつてるし、職員会議でもそれは云うてるわ。

田上 誰か2名の割り当てが来るわけやね。それを誰かを選ぶというときに私としてはやる気はないんだと。出来ないと。西田さんの云われるのでは、府教委はそこまで誰をということまで云うてこない。すると校

長の権威はまだ留保されておるといふわけですよ。

西田 誰ということ指名することによるデメリット、これを恐れられたんじゃないですか。

田上 そうでしょうね。

西田 僕の性格やつたらね、そうはしないと思ひますね。プロ野球同士のトレードみたいな考えでね、ここが弱点やからというよりはね、深く学部の年齢構成とか、1学年2学年3学年と担任を構成していく上で、何かあるんじゃないですか。そら、あんたじゃあないで、あかんでということ、共に泣いてやね。ということじゃないかと思ひんや。別の云い方をすれば、やっぱり俺はかくかくの考えで2名という指名についてはこうしたと。意見は違ふかも知れへんけど、了解して欲しいと。

校長の人事権について

田上 そこで聞きたいのは、本当に西田さんの云うように校長にはまだそれだけの権限が残されておるとか。残されておるとは僕はすばらしいと思ひます。

西田 いや、あんまり残つてると法律には反するわんで。

田上 校長にはまだそれだけの権限が残っている。しかし、2名を採ね返す権限はないと。その2名を採ね返す力を持つておつたならば問題がなかったわけだ。ところが、その力がないならば、悲劇的になって来るわけや。出て来る現象は、因果を含める術はないわけだから、すばつと来ちゃうわけだからね。

岡田 伏谷さんの場合はね、今年の状況から行けばね、伏谷さんが指名されるということは英語科の内情からするとちよつと納得でけへんね。

西田 せめて指名せんでも、逆指名でこれとこれとこれの3名くらいは絶対ダメやというのはできたんやないかと思ひ。

田上 2名を吹っ飛ばす力があると思つたんだらうか、初めからないと知りつつ放棄したのか。

西田 客観的に見ればね、なかつたんじゃないかと思ひます。せやけども、今、さつき云われた英語科の構成事情を考えて行けば、少なくとも逆指名的に、この際指名に従うが、これだけの人は確実にとどまることは認めよというくらいの扱ひはとるべきやと。

山本 地方教育行政法の23条によれば、教育委員会は「学校その他の教育機

関の職員の任免その他の人事に関する事」について管理、執行権限を持っている。任免ははっきり書いてます。ところが、その他の人事に関しては非常に曖昧な抽象的な表現になってまして、補職という文言がないですね。だから、36条の職員の進退に関する校長の意見具申権などの制度と相まって、各校の自主人事の根拠ともされた。ましてや大阪府の慣行としては、従来校長の人事権と云いますか、林人事に象徴されるような人事権があり、且つ、昭和40年以降においても希望と納得という原則が維持されて来た。その30年の慣行がどうしていきなりひっくり返るようになったのか、校長の人事権がまったく有名無実のものとなったのかということに、僕らOBの率直な疑問があるわけです。

西田 これはしかしね、鹿児島県で云うたらね、向うは甲陵であろうが、鶴丸、甲南、中央であろうが、おかまいなしや。悪い言葉で云えば強いるごとくね、移してるねん。その結果、甲陵からいきなり鶴丸に行った先生が生き甲斐を覚えてやりよった。鶴丸から転動された先生も頑張ってるよと。大阪の方はそういうことは全然なかった。勤評以来のしこりによってですね。希望と納得の線で校長がこそこそお前行ったれやてなことをやとった初期の頃は、新設校が出来た頃は、まづまづいよったわけですね。それが今さっき云った二つの要素によって、一つはお墨付きのええ加減さ、もう一つは行ったらあまりにひどいという、この二つの風潮が大阪府全体に蔓延してしまた。だから人事の平準化ということをずっと行なっておった方が正しいのではないかと。府教委が二進も三進もいなくなってるやろとするから非常に難儀なんでね。初めから、戦後以来、すべてそれやとったらよかったんや。ほんならもつとどこにも向く先生方が大阪中に育って、うまいこといよったんやないかと。

山本 府教委からこういう方針を打ち出したことについて、教職員組合ですか、府高教の方ではどういう風な反応をしておられるのか、分会の方からちょっと伺いたいのですかね。

藤尾 確かに来年は10校出来ますな、新設校が。そうすると、25人。その中で経験者はおよそ13人。すると130人、ベテランや経験者がどうしても欲しいいうことを府教委も云うとる

し、一般的に云えばそれを認めざるを得ない。ある意味では、しやあないと。130人はいるという事実はね。

山本 その130人を配属する方法ですね、手続過程ですね。例えば今まで大阪の伝統であったところの希望と納得という原則はどのように維持されていますか。

藤尾 だからね、非常に悪い云い方をすれば、府教委というのは人事権を全部掌握したい。それを最低限に抑えるためには、喻えは悪いよ、特攻隊でバーンと相手を撃沈すればある程度防げるんじゃないか、というのが組合の発想だと思うんです。喻えは悪いよ、特攻隊というのはね。事実である程度の壁を作って、それで全体へ波及させることは出来ないかというのが組合の方針というか、一つの案案だろうと思うんです。いい悪いは別の話ですよ。

西田 誤解される恐れがあるので、例えば具体的にね、こうすることが特攻隊やというようなことを云うてくれませんか。

藤尾 例えば130人ほどいると。組合は80人用意しますと。府教委は大体60人用意しないと。1万人ほど教員がいるうち、7千人くらいは府高教の組合員だな。80人用意して、お前とこは60人用意すると。

西田 それは一つのニュアンスとしては、府教委が最も嫌がる一つの方法ですね。というのは、今、具体例はあげられなかったけれども、具体的なものを引き受けたとき困ってしまうような何かがあるわけですね。すると、大阪全体の学校の誠実なる発展というものを願う教育委員会としてはね、その方策は困ると云うんじゃないですか。

藤尾 いや、労働組合もレジスタントでよかった時代から、政策の時代に入ってきたということですよ。

西田 今、藤尾さんが云われた方策というものは、実際個々の例ということとを離れて聞いたら、或いは賛同を得られるんではないかと思うんです。しかし、ちょっと証文の出し遅れというようなことを感じるのにはね、教育委員会に全面的に人事権を与えて神戸や京都が戦後直ちにやったように、どの先生であろうとも人事に関しては、それこそ一ペーン抽選券を中に入れてガーッと混ぜて教員をばらまくというくらいの奴をやろうというような議論があったときに、抵抗を示したのが組合ですね。やっぱり生活の問題やなんかもあるから、そ

ういう風なことはでけへん云うて。

友情ある説得が大事

山本 東京の公立高校では、いわゆるUターン現象というのがおこっています。これはマスコミ用語なんです。従来、学校の学区制に対して妥当でなかった、無理があったという批判が出てくるようですね。それで都教委の方では今度は手直しをしておると。具体的には9月上旬に発表になるそうなんですが、その骨子は今まで第一志望1校、第二志望3校という風に生徒達に書かしていたのを、その志望校の数を減らすと。ということば、つまり子供達が行きたいところへもっと行き易くするという風な制度に手直しするのがどうも骨子らしいです。東京はそういう風なことで公立高校の制度改革については反省期に入っているように思います。そういう時期に大阪が従来30年間にわたる慣行を破ってね、教職員の強制的な人事異動で教育の平準化をはかろうとしている。そのような制度が出来上って行くと、例えば北野や天王寺、大手前のような学校の運命はどうなるのか。

西田 ただね、教師がバカでも生徒はバカにはなりませんよ。生徒がバカやったら教師はバカになる。生徒の質というものが学校の質を維持する。伝統は、そういう風に保たれて行くか、教師の水準は何で守られるのかと云うとね、古い先生が新しい先生に対して、これが甲南のやり方や、これが鶴丸のやり方と云ってね、若い人がそれに従って行くということも必要じゃないかと思うんです。

山本 府教委の一方向的な異動によってね、例えば今まで北野高校の教育に携わって来た、伝統を形成して来た先生方が3人、5人という風に櫛の歯を引くようにして消えて行くと。そうするとその学校の精神や教育レベルというのは一体、どういう風に伝えられて行くんです。OBとしては憂慮すべきところですよ。

西田 だからね、山本君。北野なら北野というものの文化の高揚が大事やねん。だから仮りに府教委から選ばれて来た新任が実力がのうてもね、北野というのはええ学校やと、この生徒を自分の最大能力で伸ばしたろという若手の人が入って来るんやったら、それはそれで期待するよりしようないわけや。

山本 反対に出て行く方の先生方、白羽の矢を立てられて出て行く先生方

の脚気持ということはどうでしょうね。希望と納得の原則なんて云っても、有名無実になっているんでしよう。もし不服申立をしたら、……

博本 不服申立なんて受けつけられへん。今年も第三学区でしたか、異動を命じられて、来年辞めるから1年だけ待っておいで欲しい、とおっしゃってても異動を命じられた。それで結局、辞められたでしょう。

藤尾 そら、クビ。4月1日から一週間以内に大概、クビになると思う。

岡倍 今まで組合活動家が飛ばされたり、昭和41、2年のときもぎりぎりになって、云われた学校へ行ってます。だからその学校へみんな行ってますわ。反対運動なんかはしたけど。そうしないと、やっぱり生活がかかってますし、収入源が止まりますし。

西田 僕は今度の場合は止むを得ないと思うと同時に、それが一番よかったと思います。しかし一方から云えば、性格が違えば別の方策もとれたんじゃないかと。もうちょっと全体的なね。何か政策があるんじゃないかとも思うわけです。やっぱり管理職いうものは、こんなことやるもんが管理職であって、手当は安いけどね。僕は大阪府高等学校の教員になったつもりは毛頭ないんです。北野。つまり、俺の母校の教員になったんであって、カリヤンが二度も三度も来て頼みよるからね、関学の方が給料が高いのに来たわけです。だから某定時制の主事になれ、という話が来たときも断りました。もう、北野の教員になりました、と云うてね。その俺が云われたんや。お前、今断わったら大阪府の人事はワヤになるぞ。どうしても行けど。しかもね、俺におごらせよるねん、ムチャクチャやで、浦野先生。どっか飲むとこないかと。辰巳屋行ってやね、2階でね。それで布施高校へ行ったわけやね。しかし、行った以上は、布施高校の教頭として人に負けんようにやらなあかんというのが俺の精神やった。

田上 そういう話はもはやトンマな話なんだよ。ところがそのトンマが我々が欲してるものなんだ。あなたが浦野さんから云われたのは、あなたのマイナスにはなってないよ。あなたの主観的マイナスにはなっても、客観的マイナスにはなってない。ところが伏谷さんや水落さんの場合に、主観的マイナスにはなっても客観的マイナスにはならなかったという保証があるのかどうか。それだけ

の仁義がまだ残ってるのかどうかということなんです。

西田 北野だから云うて、そんな客観的保証がある筈はないんだ。せやけど、その客観的保証があるように関係者が全部努力せなあかんのではないか。僕は少くとも努力してるよ。

山本 先生の異動の話は西部劇の友情ある説得の話なんだよ。そんなやつたら、侍だってガンマンだって行きますよ、安んじてね。そういうことやったら何も問題はないんです。友情ある説得もせんで、いきなり形式的にあっへこっへちと云われるとね。我々弁護士は、人を立退かすために何回その家に行くと思えますか。200回は行きますよ、200回。それが我々平土間人生では当たり前なことなんです。それをですな、自分の生活環境もある、生活もかかってるといふそういう人をね、上からの一方的強制的な命令で、これ拒否したらクビだよ、さあ行くか、という風なことではね。教師ならずとも自由人としてはちょっと納得できんでしょうが。「人間の壁」を思い出すよ。あのときは佐賀県の予算がないからお前らのクビ切るぞ、とこういふ話。一方的な強制退職に対して、労組が団結して頑張ったんでしょ。その労組の情熱はどようだったかと。えらい現実論ばかり聞かされてるが、原理論はどうなってるのかと。

藤尾 そらまあ、こういう時代の中でね、いわゆる政策要求として出でて行く時代であることも、私は否定できないんです。ただ政策の一つとして人事がそこに入るかどうかということについては、私も悩んではいまます。大阪府はね、本質的には戦前からの学校を増やし、また40年代になって増やした。その対応の仕方が行政的にはやっぱり大きく立ち後れたように思いますね。その立ち後れを、いわば人事だけで解決しようとするところに無理がある。実質的矛盾を今の時点で人事だけで解決しようとするから問題は起こってるんだと、こう思ってるんです。

北野は存続さすべきか

西田 今日、山本君がこの座談会を開いた肚の底にはこれがあると俺は見とるから云うんやけどね。君らはね、幸か不幸か、北野の教員なんだよ。幸か不幸か、北野というのは、幸か不幸か百年以上経つてる学校であつてね。また幸か不幸か天下の北野と。ほんならね、そういう学校があり続けた方がええと

思うか、そんなもん必要ないと思うのか。近代においてやね、或いは未来においてやね。それを始めてくれや。俺の注文や。

田上 僕の思想としては、なくてもいいと思う。しかし、あるという現実を前にして、あつてはならんという途前論で人間を愚弄することには僕は賛成しかねる。僕はね、「俺が北野だ」と思ってますよ。それはね、北野がなければならんということ、それは現実なんだということ。俺がいま生きているのと同じようにね。

山本 ここにいる人は、全部、公立教育のお蔭によって、公費で教育を受けてメシを食うてる奴ばかりなんだ。公費で最高の教育を受けてきたよ。俺なんかみないな母子家庭もね。だから、その公費教育のレベルがダウンする危険性があるのは、俺はたまらん感じがするね。

田上 だから、それを残さねばならんと思うならば、それを残さねばならんような人事がなければならんと思うよ。公立がね、日本の文化のレベルを維持して行く、それが公立の使命であるというなら、それも結構。たしかに大阪では、公立高校というもの多様な役割を認めておつたよ。それならそれで、人事だけを同じ公立高校であるという機械的公平さだけで動かすということには、達前と本音のぎくしゃくがあろうと思うんですよ。

山本 心臓移植の失敗をやっちゃあならんよ。

岡田 夏野菜の移植でも、土壌を下手に変えると植物は全部枯死してしまいますよ。

溝淵 退職された或る大先生が述懐しておられたんですがね。30年以上も暮らした北野が懐しくて懐しくて、もう何か取り残されたような心境でね、いてもたってもおれずに、朝早くから北野の校舎のまわりをうろついていたと。そしたら元同僚の先生に出くわしてしまって、どうしたんですかということになったときに、いやちょっと私、淀川の水鳥の観察に来ましてなあ、と言い逃れられたそうです。職場に対する愛着というのは、それぐらいのもんじゃないんでしょうか。自発的な退職者でさえそうなんです。私には出て行かれた先生方の心境が思いやられますよ。

田上 教師の80%はね、府教委とか組合幹部とは何の関係もないところで生きているんだよ。それを大事にして欲しいわ。

山本 エゴイズムの発言とは思えんのだけどええ。教職員の個性を組織が一方向的に蹂躪するところに抵抗があるわけだ。僕はエゴイストの理念からの発言と考えてますよ。

西田 北野や天高みたいなものを大阪府において存続させるのがええのかどうか。ええとするならば、人事に对策をたてよ。悪いとするならば、ではどうするか。俺の判断はあり続けた方がええという。俺は単法やなくて逃げずに云うとる。

藤尾 これを云うとエゴイスティックな面としてとられる可能性が……。

西田 そんなもん、エゴとして恐れるなよ。日本のためなら、民族のためなら、大阪のためなら、あえて北野はあり続けるべきだよ。

藤尾 こら、一般的にはやはり府民が決めることです。

西田 あね、僕は3、4、5の生徒を主に扱ってる学校の校長。僕はその持つてる資質を最大限に伸ばしてやろうとごっつう努力してる。彼らの生き甲斐というのか、俺とこの学校に来てよかったなあというような教育を俺はやりつつあると思うんや。勿論、すべての学校でそうあるべきだ。しかし、各自の資質を伸ばすためにはね、いわゆる玉石混交の中で切磋琢磨するのがええか。玉は玉、

石は石として分離して、夫々を最大に伸ばすのがええのか。この意見の差であってね。僕は玉は玉として磨き、石は石として磨くという方がいいという意見を述べとるわけです。決して僕は北野エゴイズムじゃないつもりだよ。

藤尾 入学試験の採点見とってね、一点で切るわな。玉は玉でいけるかどうかについては疑問を持つわな。同点だって切るんだからね。

西田 あなたはもっと複雑な要素を加えた方がより公平になるとか、よりよき教育の実体が行われると云いたいらしいが、それが問題なんだと云いたい。いかなる選抜の仕方をされようと、選抜した結果の玉をよりよく磨くというのが我々の努めです。だから誤りなき選び方というものしかありえないわけで、将来の伸び率までの見方はできんわけですよ。それならね、その時点で一点の差においてやるということが合理性ということなんだ。アメリカの或る種の学校でやっとなるように、上位何%、中位何%、その次何%と、その第三番目のランクに関してはクラブ活動とか自治会活動とか、そこで優秀やった奴を採用して行くというの、一つの方法や。しかも、そのときでも最後は一点です。

博本 各ランクでもって決めてやったかて、ランクとランクで切るときはやっぱり一点差ですよ。

山本 日本国憲法26条は、国民の能力に応じてひとしく教育をするということをはっきり云ってますね。厳正な学力、或いは資質による選抜試験を、日本国憲法は当然前提としている。それは非合理的な差別じゃないと。

西田 ちよっと待て。「ひとしく」ということについて、僕の解釈をちよっと云わせろ。ここは当用漢字でない平仮名で書いてあるところがミソで、せやからここは「一斉」の「斉」の字を当てるときはなんや。つまり、能力に応じて一斉に、どのようにに解釈するわけやねんけどな。

山本 「ひとしく」というのは、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位や門地のような非合理的差別をしてはいかん、という意味ですわ。個人の能力や努力は法律家の解釈では「ひとしく」の除外事項になってますよ。だから痛烈な選抜試験があるのも止むを得ない。つまり、北野とか司法試験が存在する所以ですが、今日、いろいろとお話を伺った限りでは、伝統校を生かすも殺すも結局は我々の努力と熱意にかかっているようで、これをこれからの課題にしたいと思いますわ。

故平田泰雄先生と中国旅行

末吉 健 (旧姓浅田) 昭3

旧北野中学校4年生(大正15年)の夏休みに、当時の言葉で支那旅行を学校が募集し、生徒19名が平田、土屋両先生の引率で旅行しました。行先は上海、蘇州、杭州、南京で日程は10日間ぐらいだったと思います。

上海についた日には早速、日本でいう商工会議所主催の昼食会に招かれ、大歓迎を受け初めて支那料理を味わいました。旅館は日本人経営の宿舎でしたが現地では生水は一切禁物で一度わかした湯か、サイダー等しか飲めません。日本の水道の水を飲みたいものだと思切に思いました。

蘇州では映画に出てくる情緒豊かな風景、杭州西湖で平田先生が湖上で網ですくい上げた魚(鯉の様な姿をしている)が、立って居られる肩のところまで届くほど大きかったこと、その時の先生の笑顔が浮んで来ます。

南京で一行は全員人力車で一列に並んで中山陵参拝に行ったのですが、人力車は車夫と車体との間が長く(柄が長い)、乗っている私達は後ろにそり返る様な姿勢ですが地面からは案外低いものです。引率監督をして下さった両先生のご配慮とお蔭で全員無事に日本に帰ってきました。出発前と同様、学校で父兄と共に両先生を中心に帰朝報告を兼ねて夕食会を催していただきました。以来平田先生には直接授業を受けなかったのですが、これをご縁に親しくおつき合いをして頂いて来ました。さて旅行費用は当時の金額にして100円ぐらいだったと思います。

佐伯祐三「ノートルダム・ド・パリ」の入手について

田中 睦 (62期)

中学4年生の頃、校長室の掃除当番を担当したことがあり、佐伯祐三のノートルダムと林重義の人物画を毎日眺めるうちに魅せられて、大人になってお金が自由に扱えるようになったら、必ずこの偉大なる先輩芸術家達の作品を持ってみたい……と願望したのが、私の絵画コレクションの原点となった。

専門に美術史を学んだことで、当初は四條派を中心とした日本近世古画のコレクションからスタートしたが、趣味と実益をかねるところから現代絵画に興味に移り、昭和33~4年頃には積極的に画廊廻りをはじめた。

然し佐伯の作品は人ぞ知る故山本梵次郎家コレクションや和歌山の齒科医T氏が戦前から名品を所有したまま離さず、漸く大阪市内のSという喫茶店にかかっていた第一次滞欧作(1925)のパリ郊外の風景画「ホテル・レストラン」約15号をF画廊の世話で入手したのが昭和34年のことであった。

本年、芸術新潮の5月号にF画廊の広告で、佐伯のこの「ノートルダム」を見つけ、4年前の没後50年展で佐伯のノートルダム(マント・ラ・ジョリ)は母校所蔵のものを含め3点が展示され、もう一点行方不明のものがあると云われていたのがこれではないのか、と交渉をはじめたのである。

結局、コレクターの執念として、この12号大の佐伯一点に対して、ユトリロ「サンセブランの教会」15号、グラマンク「花」8号、ドラクロワ「ガニメデス」3号の各油彩にローランサン水彩と版画、ゴヤ、シャガールの版画等を引き換えにやっとなり入手することが出来、多年の宿願を達した次第である。

六稜同窓会だより

大五会報告 (29期 大5)

栗飯原 健三

秋の旅

大五会は年に3回の定期集會をし、二月・六月は大阪市内料亭、十月は「秋の旅」と名づけて近郊へ日増りの遠出です。

昭和56年10月は京都高線を通り越した、北山周山へ、京都から自動車で2時間、1時すぎ村山館に着き昼食は鮭、鮎、マツタケの郷土料理で寛ぎ、日増りには心残りのする旅。

欠席者には寄せ書きして私達の楽しかった事を綴り後日スナップ写真を送りました。

百歳まで

私達は今、83、4歳の高齢期にありますが、東京渋谷には日本百歳会がありまして毎年、立派な年鑑を発行して、全員を紹介しています。

大五会々員の約束ごと

10年前の例会の席上で能見兄は「私は百歳まで生き延びて大五会の御世話をさせて貰います」と堅い約束をして下さいまして、皆さん笑いながら承認いたしました。

昔からの言い伝えに、「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ、尾張名古屋は城でもつ」と申しますから、私は「大五会は、能見兄でもつ」と申しあげたい気持ちであります。

御遠族は準会員

大正5年卒業の時116人でしたが今日は激減して11人、病床生活の方も加えて21名、消息不明9名、となりお互に心淋しい限りです。それで御遠族の方に電話して準会員になって戴き、例会にも御出席下さって、とも共に、故人の在りし日の思い出をどして故人も蔭ながら、御出席されています。

NHKテレビ

9年程前の或る夜の放映で「老人の集」の時に或る方が老人の生き甲斐のテーマになった時、(1)は生涯の仕事をもつ事であり、(2)は良い友人を多く持つ事と申されました。

私達会員はお互に勵ましかって「美しく余生」を過ごしたいと例会で申し合わせました。

「老いの日に」出版

昭和41年、北中卒業50周年を記念して写真入りの、隨筆集を出版しました。その後機会がある毎に出版して来てこれで5冊目です。もうこれが最後であり、私達の家族に残すため「老いのタワゴト」を綴り、昭和56年7月に発行の43頁の小誌でしたが意外に好評で会員一同感謝しています。

六稜魂の発露

昭和56年10月25日、大阪堂島の清文社で六稜会の総会があり、上野会長は冒頭のご挨拶の中で、「昭和58年は北野創立

110年に当るので記念式典を開催する」と述べられました。

私達大五会々員は今こそ、六稜魂を出して、生き延びて、この光栄ある式典に出席しましょう。

過去78年間に大五会々員が受けた六稜会の友誼に対して心から感謝の意を示しましょう。

六稜昭二会 56年総会

校門を出て54年、白髪あり、丸ハグに半ハグ、杖に頼り、補聴器を耳にする者など。昔年の面白も70年の寄る年波に様々の特徴を発揮しているが、みんな口だけは達者の限りで往年の意気盛ん。

昨秋11月8日の日曜、1時からダイヤモンドクラブ京都ソサエターに東西から相集るもの32名、大いに気焔を挙げ飲を尽す、京洛を楽しまんと同夜の宿泊者10名は翌日は八瀬大原を巡って大満足で散会。(岡田記)

六稜昭三会総会

57年5月21日(金)午後5時から阪急グランドビル19階の都市文化センター別室で開催。

立食パーティーに前大阪府知事黒田君も顔を出し、30名が昔を偲んで談笑風発。斎藤(元毎日編集長)君が「おい皆さん、いっぺん京都で舞子、芸者を挙げてドンチャンやろか、いまやったらナンボかかるやろか。一人会費10万円で集ろやないか……」「おい皆さんカアちゃんの許しを貰うてやろやないか」などで大爆笑。岡田バカリキ君の得意の校歌合唱、三七拍子で七十過ぎたお爺達がハハッスルした。目出たし、目出たし。(末吉 健)

卒業三年目に同期会開催の快挙!! 六稜九二会

我々92期生(昭和55年卒)は昨年8月に年度幹事会を行い、「六稜九二会」を組織しました。と同時に上京者を対象とした「東京六稜九二会」を設置し、12月4日に東京・渋谷にて総会を開きました。九二会内部には一般事務を担当する事務局と住所変更の確認、調査を担当する情報局を有します。12月から本年1月末にかけて、会費を募集し、現在、相当な資金をプールしており、これをもとに、本年7月に会報を発行しました。また、8月には92期生全体総会の企画があり只今、準備中です。会事務局は、住山、飯田両理事が担当し、情報局は私が担当しています。諸先輩の温い御助力と同期生諸君の協力をお願いします。(六稜九二会副理事 早見信一郎記)



最新の技術と50年の経験を生かしたコンプレッサー及空圧製品の専門メーカー

株式会社 田邊空気機械製作所

本社・工場 〒546 大阪府摂津市千里丘2丁目14番6号 ☎代(06) (388) 1331
東京支店 〒485 東京都中央区日本橋室町1丁目6番地 ☎代(03) (279) 2481
名古屋工場 〒123 愛知県小牧市大字小牧800番地 ☎代(0568) (76) 4191
名古屋営業所
九州営業所 〒812 福岡市博多区冷泉町1-10 ☎代(092) (271) 0782

卒業して50年

六稜四五会の記念総会

我々六稜四五会(昭和7年卒 45回生)は、昭和57年には卒業して50周年を迎えることになるので、この年に記念総会を持つとうじやないかとの議が、一昨年(の奈良、昨年)の京都総会で上り、決定され、去る4月2日・3日に開催しました。

参加者、広田先生、水島先生、大須賀、有井山両先生御遺族、会員42名。関東、中京、山陰、四国の遠近各地より参集していただきました。

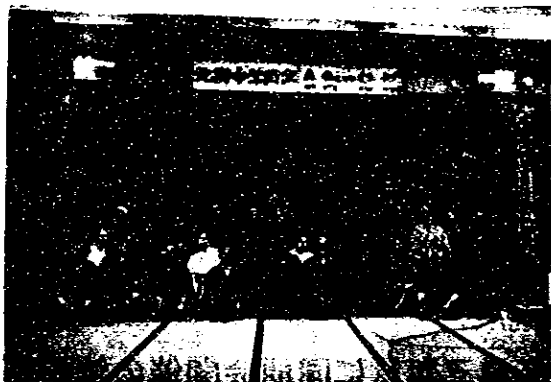
行事の概要

1. 恩師、同窓の物故者追悼法要

4月2日 午後1時～2時

大阪・日蓮宗円頓寺に於て(同期佐藤英夫師住職)

佐藤導師のわんごころなる御談話に、今は亡き恩師、学友79名を陰に浮かべつゝ、香煙につつまれ、導師の回顧談を交えた法話に一同しんみりしたひとときを過した。大須賀先生未亡人、有井山先生の遺児より御焼香賜わった。



2. 北野中学校(現高校)学校訪問参観

4月2日 午後2時30分～3時30分

泉現校長先生より最近の北野高校についてのお話を聞き、懐かしの教室講堂を参観する。我々は5年生の時だけ学んだ校舎だったが、府下随一のスマートな校舎だったこと、十三大橋を延々長蛇の列で机や教具を運んだこと、教室で成績順の机席の情けなかったこと、腸チフスの発生で休校の嬉しかったこと等、談笑に花が咲いた。校長先生の話や校舎の隅から、今も六稜魂が脈々と流れていることを肌で感じつつ、先生方に謝辞を述べ、再びバスで一路有馬に向う。

3. 総会、懇親会、有馬兵衛 向陽閣で

4月2日 午後6時30分より

82才を迎えられた広田先生、米寿記念の出版計画になお要難たる先生に敬服する。北中生の徹底した研究熱心に、いい加減な授業はできなかったとおっしゃる水島先生、徹底した先生の英語教授に今改めて、感謝の頭が下った。自己紹介の中で、今や老境に入り第一線は次代に譲り、顧問相談役として活躍する傍ら、趣味に生きる諸兄、又時事論評に深い関心を寄せ世を嘆く等、談話風発、又カラオケに若さを発揮、愉快な懇親会は高らかな校歌合唱で締めくくられた。各室に帰って、談笑に有馬の一夜は仲々更けなかった。

翌日、午前10時、今後のお互いの健康と来年度の総会での再会を誓い合って散会した。

幹事

大阪、磯尾汀一・佐藤英夫・富田成久・西田誠行

野崎龍治・松井一雄・森島重精

東京、野田隆一・峰 広長

名古屋、大槻光武

庶務

守口長英・田中静夫

(守口、田中記)

小芋さん、タビヤン、玉ちゃん傘寿お祝

四九会(49期)では本年4月10日(土)午後3時より植村文時、土屋憲三、玉田眞澄3先生の傘寿のお祝パーティーを大阪魚市場社長贈隆造氏の軒入りで、中之島センタービル31階、トップロウンジにて立食パーティー形式で開催。

参加人員50名、東京よりオタンこと大谷眞志郎先生も来阪、玉田先生は現在徳島にお住いで、健康上の理由で欠席。

会は先ず3先生へのお祝いの言葉、記念品贈呈を館崎新吉郎(館崎クリニック院長)が行い、土屋先生より謝辞があり、祝宴に移る。

32階の会場の窓外には東は生駒、金剛そして大阪湾、大阪港、六甲の山々に沈む夕陽が印象的、6人の美女の手ぎわの良いサービスであちこちで話はずみ、久し振りの出席者も大喜びで旧交を暖めていた。

陽も既に沈み、知らない間に窓外は百万ドルの夜景に変わっていた。午後8時近く来年度の幹事を決め、全員校歌を斉唱、大谷先生よりいろいろの同期会に出席するが、間違わずに完璧に何も見ずに歌ったのはこの期だけだとほめられ、閉会、解散、それぞれ2次会3次会と散って行った。

後日、幹事西沢壮介氏が徳島の玉田先生宅に記念品をお届けに伺い、先生の現況をお聞きして帰阪、先生は思ったよりお元気で、来年の会には必ず出席することを約束されました。



49回・傘寿お祝記念品贈呈 トップロウンジにて

近況報告

39回(サンキュウ会)飯田

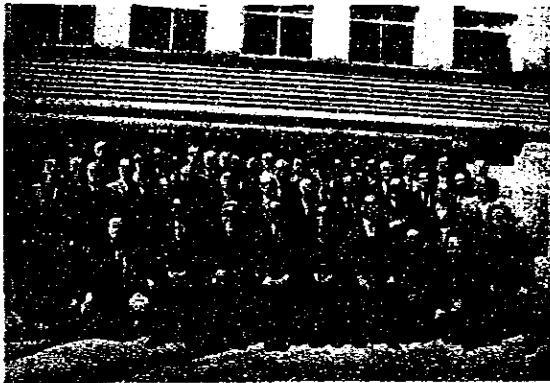
昨年11月2日岡田善雄君の世話で鴨川右岸ダイヤモンドホテルで卒業55周年の集りをした。東京から3人全部で14人一泊二日、で夜の更けるのも忘れてワイワイと楽しい一夜を過した。それ以後香村菊雄氏が郷土史の研究で伊丹市の名譽市民に推薦された。安井琢磨氏が計量経済学の研究で勲一等瑞宝章をもらった。名門の建具屋から日本中に夕霧そばで名の通った「そばの狐亭」を築きあげた林芳雄が亡くなったのは今早春であった。クラス幹事白井、林、松井、中村、飯田の5人の中一人を失った。現存者入学時の約6割である。7月幹事長の白井がオールドボーイオーケストラ演奏中に脳質血で倒れたが大したことなく大事をとって目下静養中、川島武直が「家庭の法律」を岩波新書で出した。一読をおすゝめする。

「北野」入学50周年記念同窓大会

—第50回卒業同窓の「互励会」の快挙—

北中50期生の「互励会」では昭和7年入学の最初の登校日4月11日が今年にはたまたま日曜日であることもあり、この日「入学」50周年の記念大会を開催した。

当日は先ず正面玄関前に集合、記念写真撮影のあと、視聴覚教室において記念式典を催し、物故同窓追悼記念の後、恩師代表水鳥先生の「記念の言葉」につづいて、同窓の帝塚山学園の熊沢安定君の記念講演「50年の回想」を聴いた。恩師としては梅原義一先生・小林二郎先生にも出席をいただいた。集る者計55名の盛況であった。当日のプログラムを記せば下記の通りである。



母校 本館正面玄関前にて

I 記念式典の部

- | | | |
|-----------------|------|---------|
| ①開式の辞 | 司会 | 西田 駿 夫 |
| ②幹事挨拶 | | 本 多 十 郎 |
| ③物故同窓追悼 | | 一 同 |
| ④記念の言葉 | 恩師代表 | 水鳥 喜平先生 |
| ⑤記念講演「五十年を回想して」 | | 熊 沢 安 定 |
| ⑥閉式の辞 | | 平 岡 頼 造 |

II 懇話会の部

—食堂に於ける茶話会形式の会合—

- | | | |
|--------------|--|---------|
| ①東京地区同窓代表の挨拶 | | 中 山 栄次郎 |
| ②同窓誌「互励」編集裏話 | | 木 本 徹 |
| ③互励会初期の苦勞談 | | 橋 本 巖 正 |
| ④閉会の辞 | | 中 野 昌 夫 |

III 懇親会の部（宝塚へ一同移動して）

—阪急電鉄健康保険組合宝塚保養所にて—

同窓の阪急電鉄専務田中正次君のお世話により立派な会場に於て夜の部を、新たな参加者をも加えて一夕くつろいだ懇親の場を持った。一同飲み且つ喰らい積もる懐旧談などに深更に及ぶのも忘れた。遅来の連中に在阪者も若干加えて宿泊する者10数名を残し、再会を約して解散した。

なお次回の互励同窓大会は5年後の卒業50周年記念大会を昭和62年3月某日を期して更に充実した對面を盛り上げることを参加者一同申し合せた。（幹事 本多記）

卒業30周年記念同窓会（64期）

卒業30周年を記念して、われわれ64期生（昭和27年卒）は、ことし5月29日（土）、大阪の東洋ホテルで「六稜六四会」の同窓会をもった。出席は、泉現校長先生と、われわれが教えを受けた石田千代之輔先生はじめ恩師の先生方15名と同窓生193名（男子124名、女子69名）で大変な盛況であった。

当日は、まず北野の大先輩である水嶋國嘉氏の「中年からの健康管理」についての講演にはじまり、記念写真の撮影、他界された恩師と14名の友人への黙祷、学校への記念品贈呈などの後、新役員の選出と5年後の再会をきめて最後に立食パーティーとなった。

全員が懐旧の念にひたり、談笑に時のたつのを忘れたが、全般の印象としては、男子はかなり老成した感じの者もいたのに、女子はすべて、卒業時とあまり変らぬぐらい若々しかったことがあげられる。また名簿に卒業時のアルバムを再録して当日配布したのも一興であった。

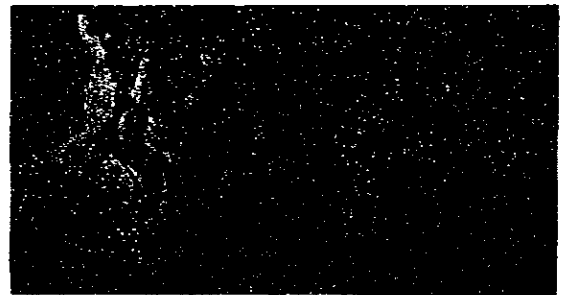
この記念同窓会が成功を収めたのは、1年以上前から周到な準備を進めてくれた家近正直君をはじめとする実行委員のメンバーの努力に負うところがきわめて大きい。

末筆ながら、泉校長先生と恩師の先生方に御出席いただいたことに心から感謝申しあげる。

（六稜六四会 足立一郎）昭57・7・19

六稜八六会初会合報告

私達86回（昭和49年）卒業生は初めての（学年）同窓会を昭和56年10月11日、大阪東急インにて開催しました。クラス毎の同窓会はそれぞれ行なわれてたようですが、皆、社会人となりまた大学で研究を続けたり、永久就職（結婚）したりと、将来の方向も決まりそろそろ学年の同窓会を開きたいという声次第に高まり、当日の運びとなりました。秋晴れの10月11日は、溝脇、稲葉、井田、藤尾、嶋上、植村、山脇、真田、伏谷、玉井各先生が御出席下さり同窓生も145名集まり、ホテルの大ホールもせまく感じる盛會となりました。

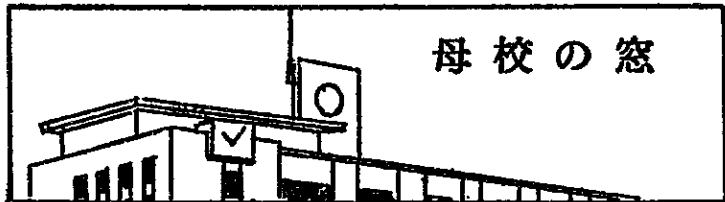


（荒巻隆志君司会のもと）1年タイム—高校1年時のクラスに暫分かれ、1年時のクラスメートとおしゃべりするタイム—続いて2年タイム、3年タイムといった趣向があり、8年ぶりに会う友人と話のはずむ集りでした。また平石先生から同窓生同志で既に結婚しているカップル、近いうちに結婚予定のカップルの紹介（約10カップル）があり、全員理上で皆からの盛大な祝福の拍手をうけました。

—お幸せに—

アッという間に2時間半がたち盛況のうちに閉會となり、皆名残り惜しく、おしゃべりが足りないのか2次会（3次会）へと三々五々に別れていきました。

今回の総幹事をしてくれた安永哲也君、名簿の手配、校正をしてくれた原田栄二君をはじめ、各幹事様御苦勞様でした。次回の幹事様宜しく願います。（時実記）



母校の窓

御祝い

岸石藤吉先生が、叙勲の栄に浴されました。おめでとうございます。

御不幸

平田泰雄先生がお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

職員異動

加賀山茂 (S55~S57) 教頭
葛西憲徳 (S23~S57) 英語
伏谷峰典 (S26~S57) 英語
水落和沖 (S33~S57) 社会
昭和57年3月31日付をもって本校を去られました。葛西先生はご退職、悠々自適の生活に入られました。又、加賀山先生は島本高校の校長に、伏谷先生は大正高校、水落先生は美原高校の教頭に、それぞれご転勤されました。今後のご活躍をお祈りしております。又、4月1日付をもって新しく以下の先生方をお迎えました。

人位 昇 (北野高校・定・教頭) 教頭
中田義彦 (吹田高校・定) 英語
升方清一 (四条職高校) 社会
山崎長生 (刀根山高校) 英語
近藤洋子 (新採用) 社会
鎌田俊一 (北千里高校) 国語
佐々木美枝 (豊島高校) 英語
島川茂清 (横山高校) 英語
田中正博 (柴島高校) 英語
なお講師として大森実(社会)、熊木理介(理科)の両先生をお迎えています。

ご寄付をいただきました

64期(S27年本)より卒業30年を記念して、安立カードリーグDCD56Fコンピュータ(30万円相当)を学校にご寄付いただきました。紙上よりお礼申し上げます。

クラブだより

57. 8. 1 現在

【ラグビー】

公式戦。第61回全国高校ラグビー府予選(2回戦)52-0 対北陽高勝、(3回戦)21-0 対東豊中高勝、(4回戦)20-0 対長野北高勝、(準々決勝)16-0 対大正高勝、(準決勝)0-23 対茨田高敗。近畿大会府予選(2回戦)23-0 対北陽高勝、(3回戦)43-0 対泉鳥取高勝、(4回戦)32-0 対平野高勝、(準決勝)9-3 対大手前高勝、(決勝)7-16 対浪商高敗。春季大会(1回戦)28-0 対浪速高勝、(2回戦)0-4 対門真西高敗。定期戦。洛北戦4-16敗。天王寺高校戦12-6勝。

【器械体操】

公式戦。大阪高校春期体育大会男子団体総合6位。女子個人大阪高校選手権大会出場。記事・連絡
先輩に、できればクラブに来られて、技術面、精神面共に御指導のほどよろしく願います。

【ソフトボール】

公式戦。36回大阪高校総体1-8 対河南高負。10回大阪高校部別大会2-1 対白菊高勝、4-8 対天王寺高負。34回全日本高校女子選手権(予選)4-3 対西商勝、3-10 対大阪女子短大附属高負。

【合気道】

合気道部は部員数53名を数え益々、隆盛、朝練、昼練にと頑張っています。56年度は、文化祭の演武の余韻を受けて、8月上旬高槻の天武産合気道道場で恒例の4泊5日の合宿、大学二回生、一回生の元気一ぱいの先輩の指導を受け、小田先生の技に感服し、最後は何といっても阿部先生の大きな指導力の前に一同感謝して、無事終了しました。阿部先生は第1日目より最後まで御指導下さいました。先生、先輩諸氏どうも有難うございました。57年6月14日、文化祭第2日目の演武、会場ぎっしりの観客の前で堂々の熱演でした。6月20日には新宮高校、北淀高校、帝国女子高校との合同練習、互いの技の研究に得る所大でした。記事・連絡
7月27日より7月31日まで、4泊5日の合宿、高槻の道場で行ないます。阿部先生は4月24日より5月27日まで、渡米。合気と書に指導に。次は7月25日より8月15日(予定)まで再度、渡米、指導普及に努められます。

【女子バレーボール】

公式戦。総合体育大会(リーグ戦)2-1 対東淀川勝、1-2 対摂津負、2-0 対島飼勝。府立高校大会(リーグ戦)0-2 対高槻南負、2-0 対春丘勝。秋季部別(新人大会)1回戦不戦勝、2回戦2-0 対教育大附属池田勝、3回戦2-1 対上神谷勝…3部昇格。春の高校バレー大阪予選1回戦2-0 対上神谷勝、2回戦2-0 対門真勝、3回戦0-2 対三国丘負。春季部別(リーグ戦)1-2 対枚方負、2-0 対明浄勝、2-0 対泉北勝…2部昇格。インターハイ予選(近畿大会予選)1回戦不戦勝、2回戦2-0 対東豊中勝、3回戦2-0 対摂津勝、4回戦2-1 対直真勝、5回戦0-2 対桜宮負…近畿大会出場決定(BEST16入り)定期戦。天王寺高校戦2-1勝。

気軽にお願いいたします

結婚の相談室です

日本ブライダル協会

松原 健吉

松原 鉄男 (68回卒)

〒540 大阪市東区谷町1丁目42(エルフ大手前401号室)

TEL 大阪 945-0677

【男子バレーボール部】

公式戦。大阪高校総体(リーグ戦)2-0対箕面東勝、2-0対茨木工勝、2-0対福島高勝、0-2対門真負。府立高校大会(リーグ戦)0-2対桜塚負、2-1対豊島勝、2-0対芥川勝。秋季部別大会(1部リーグ戦)0-2対清風負、0-2対南寝屋川負、2-0対渋谷勝(結果3位)。春の高校バレー大阪府予選2-0対桜宮勝、2-0対市立高勝。新入大会(トーナメント形式)2-0対池田勝、0-2対南寝屋川負。春の高校大阪府予選新入大会(1部リーグ戦)2-1対東勝、0-2対此花学院負、2-0対住吉勝(結果2位)。インターハイ予選0-2対北淀負。

OB戦。4勝4敗。

OG戦。2勝2敗。

(57年度春のリーグ戦において、BリーグからAリーグに、男女共昇格しました。)

本クラブは、バレーボール連盟結成10周年記念式典で、10年間勤続で表彰してもらいました。

【剣道】

公式戦。36回大阪総体(男子団体)2回戦4-7対大産大勝、3回戦5-0対西寝屋川高勝、4回戦2-2対岡大一高代表戦により勝、5回戦1-3対近大附負。府下ベスト16(女子団体)2回戦2-2対桜宮高本教負。24回北摂大会男子団体準決勝2-2対豊中高本教負3位。女子団体準決勝1-2対箕面高負3位。28回大阪新入戦(男子団体)2回戦3-1対PL学園勝、2回戦3-0対東淀川高勝、3回戦1-2対堺西高負。府下ベスト16。29回全国高校(府予選)(男子団体)3回戦2-2対刀根山高本教負。(女子団体)1回戦4-1対東寝屋川高勝、2回戦2-0対大阪女子商勝、3回戦4-0対北千里高勝、4回戦1-3対四条綱学園負。大阪府役別女子個人戦2段の部楠本準優勝。

定期戦、対天王寺勝。対大手前勝、3高校戦(北野・豊中・池田)男子団体準優勝、女子団体優勝。男子個人森川優勝、女子個人岸岡優勝。

連絡

諸先輩方、お忙しいですが、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

【野球】

公式戦。秋の大会(府予選)0-11対美原高敗。春の大会(府予選)1-4対関西大倉敗。

定期戦。4-3対市西勝、4-14対天王寺敗。

【囲碁・将棋】

公式戦。第6回全国高校囲碁選手権大会大阪府大会(6月20日・日曜日)1-2対清風高惜敗。松澤邦明四段(3年生)は五段で出場し、3勝1敗的好成绩であったが、五段の免状は授与されなかった。中田洋二初段(2年生)は初段で出場し、4勝1敗的好成绩で、二段の免状を授与された。鶴島俊一3級(2年生)は3級で出場し、3勝1敗的好成绩で、2級の免状を授与された。

連絡

今年の六校同窓会の手談会(11月3日・本校における囲碁大会)は、都合により中止させて頂きますので、ご了承下さい。

トピックス

泉梯二校長が大阪府高等学校囲碁連盟の初代会長に就任されました。(本年8月、大阪府高連連が発足、全国高連連に加盟)

【コーラス】

出演した演奏会。第36回関西合唱コンクール。六校交歓音楽祭。大阪府高等学校連合音楽祭。新入生歓迎演奏会。本校56年度文化祭。

連絡

今年は13人の一年生が新たに加わり六月に行われた文化祭にも出演しました。クラブとしてはこの夏期休暇中の練習で大ききのびてくれる事を期待し毎日の練習に励んでおります。

【オーケストラ】

出演した演奏会。六校交歓音楽祭。大阪府高等学校連合音楽祭。新入生歓迎演奏会。56年度本校文化祭。

連絡

本年度は新入生が多数入部し総勢50人をこえ、楽器、練習方法、練習場所等運営面でのむずかしさに頭を悩ませているこの頃です。

【美術】

現在の部員数20名(女子のみ)1年の部員無く、来年がややぶまれる。昨年8月は白鳥にて合宿写生、帰路穂高の緑山美術館見学、本年は岡山県牛窓に合宿写生、8月末の大阪府高校展出品の作品作制、夏休み中登校作品制作の予定、又3学期には第1ブロック展に出品の予定、美術系大学への進学者6名。

【書道】

本校の文化祭の展示部門の1つの大きな柱は、書道展示であるとの自負のもとに、努力を続けて、本年も6月13日、書道教室で展示と、講堂で席書揮毫を行ないました。どちらも大勢の観客に見守られて、無事終了しました。特に教室展示には、前任者の阿部先生御所蔵の、古扇、古銘硯の多くを特別に展示して頂きました。その場を立ち去り難く、見入る人達の姿も多く、一種幽玄な世界を作り出していました。

現在(7月20日)は、古典の臨書を主として、夏休み中には糸幅作品を1-2点完成させます。冬休みには全国書道展があり、上位入賞をと頑張っています。来年1月の昇段試験には、2段-3段合格を目標としています。そして、4月には新入生歓迎展を開く予定です。

連絡

阿部先生が北野を辞められて、早くも1年半以上過ぎました。在学時にお世話になった者同志で、先生を囲む会をどの声も上っています。先ず手始めに、書道部OB会の名簿作りをと思っておりますので、住所、近況等、北野高校内書道部名簿係まで、お送り頂けたらと思います。よろしく御協力願います。

【E.S.S.】

S57.5月、ホノルル市長杯全日本青少年英語弁論大会、内海由美子参加。S56.11月、テープによる英語レシジョン・コンテスト高校の部、橋本美佳参加。全関西高校英語弁論大会、橋本美佳参加。

珈琲は黒い魔女

福田珈琲株式会社

大阪本社 大阪市西区新町1丁目29番17号 電話 (541)5231番

東京本社 東京都練馬区羽沢3-38-3 電話 (991)1011番

代表取締役 福田 規 雄 (60期)

大学合格者一覧表

(57. 4. 22 現在)

立	男	女	計	京都府大	1	1	ノートルダム大	1	1	大	男	女	計	合計	4	4			
北海道大	4	2	6	京都府立医大	2	2	花園大	1	1	大	2	2	56年-昨年	男	女	計			
旭川医大	1	1	2	京都市大	1	1	立命館大	17	7	24	大	1	1	国立	130	75	205		
東北大	1	1	2	大阪女子大	2	2	電谷大	4	4	4	名	1	1	公立	31	16	47		
筑波大	1	1	2	大阪市立大	6	11	17	大阪医科大	6	2	8	滋	1	1	私立	282	266	548	
千葉大	1	1	2	大阪府立大	5	2	7	大阪香大	1	1	1	京都府立大女子	2	2	短	大	34	34	
東京大	5	1	6	神戸商大	1	1	1	大阪歯科大	1	1	1	武蔵野美術	1	1	準	大	3	3	
東京工大	1	1	2	奈良県立医大	2	1	3	大阪薬科大	16	16	16	華	1	1	就				
一橋大	4	4	8	合計	19	20	39	大阪神学大	5	5	5	京	1	1	合	計	56	37	93
お茶の水大	3	3	6	私立	男	女	計	15	16	31	関	12	12	56年(昨年)	男	女	計		
新潟大	2	2	4	慶応義塾大	21	4	25	関西医科大	2	2	4	光	1	1	国立	171	92	263	
金沢大	1	1	2	創	2	2	2	関西外大	6	6	6	大	2	2	公	立	36	27	63
三重大	1	1	2	上	2	1	3	近	1	4	5	大	1	1	私	立	239	251	490
滋賀大	2	2	4	多	1	1	2	梅	1	1	1	大	1	1	短	大	41	41	
滋賀医大	4	4	8	中	4	1	5	帝	2	2	2	大	1	1	準	大	2	2	
京都大	61	5	66	津	2	2	2	甲	9	9	9	関	1	1	就				
京都教育大	1	1	2	東	2	2	2	甲	1	1	1	金	7	7	合	計	48	48	96
京都工機大	2	2	4	東	1	1	1	神	3	3	3	帝	1	1	57年(本年)	男	女	計	
大阪大	29	13	42	東	1	1	1	神	7	7	7	常	1	1	国立	156	75	231	
大阪教育大	2	14	16	東	4	1	5	神	28	28	28	夙	2	2	公	立	19	20	39
大阪外大	2	8	10	日	1	1	1	関	35	24	59	國	1	1	私	立	191	232	423
神戸大	27	18	45	明	1	1	1	松	1	1	1	武	2	2	短	大	1	42	43
奈良女子大	7	7	14	早	29	1	30	慶	1	1	1	合	1	42	43	準	大	3	3
岡山山	2	1	3	長	1	1	1	兵	1	1	1	大	3	3	合	計	370	373	743
広島大	2	2	4	大	1	1	1	武	10	10	10	防	3	3	合	計			
香川医大	1	1	2	京	3	3	3	帝	1	1	1	合	3	3					
愛媛大	1	1	2	京	8	8	8	天	1	1	1	専	1	1					
九州大	1	1	2	京	1	1	1	徳	1	1	1	明	1	1					
合計	156	75	231	京	1	12	13	産	1	1	1	国	1	1					
公立	男	女	計	岡	46	25	71	合	計	391	222	613	立	1	1				
岐阜薬大	3	3	6	岡	11	11	11	合	計	391	222	613	立	1	1				

名簿について

- 来年 110周年記念名簿が発行されます。住所等の変更情報はすぐにご連絡下さい。現在コンピューターに入力されている情報が名簿の内容となります。もし現状に変更が生じた場合にご通知がないと、もとの誤った情報がそのまま印刷され、正確な名簿ができません。
- 48年度より個人番号が永久番号になります。
お手元の六稜会報郵送の封筒の表をご覧ください。右下に番号と*印があります。前号でお知らせした通り、個人番号と年会費納入済の印です。その個人番号ですが、大部分の人は前年度と違っている筈です。それではまぎらわしいではないかという批判が当然出て来ます。そこで来年度(58年度の会報の封筒の番号)からは番号を固定し、永久番号とすることにしました。今後ご連絡下さる時には、氏名と個人番号を併記して下さい。事務処理が能率的になります。なお*印のついてない方は年会費の納入が未納ですから、速やかに納入をお願いします。
- 110周年記念名簿は同封振込み用紙で予約下さい。
振替口座 六稜同窓会名簿刊行会 大阪1-309004
価格一部 3,000円(郵送料込み)
- 110周年記念名簿の広告を募集しています。
24頁にある要領でお申し込み下さい。会社、個人、グループのいかんを問わず、申し込んで下さい。

プロフィール 「高校野球とは」自問の半生執筆

清水治一 北野高校監督 (57期)



小説に取り組んでいるのは、大阪府立北野高校野球部監督の清水治一さん(57)。戦前、旧制北野中学のころ、強打者として活躍した。戦後間もなく母校の監督として春の選抜大会で全国制覇した。48年秋、監督に復帰し、55年からは府高野連理事も務める。「まき・ごろう」のペンネームを持つ児童文学作家でもある。

2年前、府高野連の納会用に「野球バカ音頭」を作詞、作曲した。「えんじのタイに 白いシャツ 粋なショルダーちよいとかけて けさもいそいそグラウンドへ(中略)おれたちや大阪の野球バカ」。自分自身を投影した歌詞が、そのまま小説のテーマになる。題名も「おれたちや高校の野球バカ」。

主人公は府立六稜高校野球部監督の「ジーヤン」。ジーヤンとは、清水さんの実際のニックネームで、六稜高校は実在しないが、ちなみに北野高校の同窓会は「六稜会」である。甲子園のスタンドで、決勝に進出したQM学園(架空)の試合を見ながら、ジーヤンの回想が始まる。戦後間もなく、女子マネジャーの起用をめくって高野連ともめた思い出、校長の次男とPTA会長の長男のどちらをベンチ入りさせるかで悩んだ経験、猛ノックに耐え切れず泣き出す現代っ子に手を焼く場面……。

いずれも、身近に体験したことだ。「甲子園だけが高校野球ではない。野球に負けても社会で負けたらあかん」と、ジーヤンは声を強める——。

小説は四百字詰め原稿用紙に約250枚で、秋には書き上げる予定。
(57.7.7 朝日新聞朝刊より転載)

六稜文庫

(昭和56年5月以降)

大五会 老いの日に
63回 卒業30周年記念誌
宮崎敏考(73回) ANNA PVRNA II
森本嘉一(49回) ランタン・リルン登頂アルバム
水泳部OB会 残水 第5号
畑中正一(63回) ウイルスとガン
追悼寺尾威夫編集委員会 追悼 寺尾威夫
上田 敦 旅の心
—シルクロードの思い出によせて—
石津 作次郎 石津回顧八十年
石津回顧八十年(続)
山本為三郎翁伝 山本為三郎翁伝
編集委員会

大和銀行50年史 大和銀行50年史
編集委員
中正敏(46回) ザウルスの車
詩とともに —パンの耳など
杉本正二(訳) 教育の目標 ※ホワイトヘッド(著)
(55回)
今井俊博(66回) 小売業はこうすれば強くなる
岡島吉郎 北中在学当時の手塚 治
泉 佛二(校長) 巨匠の名画(12) 佐伯祐三
日本の名画(23) 佐伯祐三
日本の名画(23) 佐伯祐三
佐伯祐三展
佐伯祐三
—ある画家の生涯と芸術展—

(注) 氏名は寄贈者です。

なお他にも卒業生より図書館あてに寄贈された本がありましたが、「六稜文庫」宛になっているもののみ掲載しております。又「六稜文庫」は別途保管しております。

試薬

石津製薬株式会社

取締役社長(薬学博士) 石津 一 貫 (昭和13年卒)

専務取締役 石津 純 正 (昭和17年卒)

本社 大阪市東区道修町2丁目26 電話(06)231-5003代表
工場 大阪市鶴見区鶴見4丁目17番の86号 電話(06)911-3789
東京営業所 東京都千代田区岩本町1丁目6番7号 電話(03)866-5715
九州営業所 福岡市東区筥松4丁目8番7号 電話(092)611-1561代表

同窓会名簿の広告募集 締め切りせまる!!

— 昭和58年度 母校創立110周年記念

六稜同窓会名簿に広告の掲載をお願いします —

1. 申し込み期間

昭和58年5月まで!! なるべく早目に申し込まれるようにお願いします!!

2. 申し込み先

〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13

大阪府立北野高等学校内 六稜同窓会 名簿広告係

3. 申し込みの様式

広告の原稿は後でもよろしいのですが、とりあえず申し込みを急いで下さい!!
様式は下記のとおりです。

申し込みは葉書で、もし原稿同封の場合は葉書大の用紙でお願いします。書式は次のように統一しておきますので、①より順に記載して下さい。

例

- ① 名簿広告の申し込み
- ② 申し込み日時
- ③ 卒年・卒回・氏名
- ④ 郵便番号・住所・電話
- ⑤ 広告社名
- ⑥ 郵便番号・会社所在地・電話
- ⑦ 主たる連絡先 (自宅か会社かの別がわかるように、
③又は⑤の後に○印をつけて下さい。)
- ⑧ サイズと料金
- ⑨ 原稿同封と別送の別

①	名簿広告の申し込み	
②	S56・10・1	
③	S28年・65回 北野太郎	○⑦
④	〒531 大阪市淀川区中津4-5-8	又
	TEL 06-371-7528	は
⑤	北野商事株式会社	○⑦
⑥	〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13	
	TEL 06-303-5661	
⑧	中はさみ込み1頁	100,000円
⑨	原稿は別送します。	

4. サイズと料金

見開き1頁(表・裏とも)	縦 21.5cm × 横 16cm	300,000円
中はさみこみ1頁	21.5cm × 16cm	100,000円
◇ 1/2頁	10.75cm × 16cm	60,000円
◇ 1/3頁	7.15cm × 16cm	40,000円
◇ 1/4頁	10.75cm × 8cm	30,000円
	5.3cm × 16cm	30,000円

編集後記

○ 遅い梅雨と早い台風の来襲とが重なり、各地に災害をもたらしましたが、会員諸兄弟のお宅はいかがでしたでしょうか。お見舞い申し上げます。
○ 会報の活字が小さく読みにくいとの御意見がありますので、活字を大きくすればどの位のページ数になるかをよく検討して、来年度から改善できればと思っています。

○ 今回の「北野戦後史」は水落先生にご執筆願いました。「これまでの執筆者が大先生ばかりである」ことを気にされ当初は固辞されたのですが、読者層の要望もあり新風を吹き込む意味からも御無理をお願いすることになりました。
○ 「明年は北野創立110周年。本年はその特集号を」との御意見もありましたが、時期尚早との判断から従来通りの体裁にとどめました。(満願)